

科目名	レポート入門 I						
授業コード	2530	授業科目名	レポート入門 I			担当者	金子伸二教授
開講期間	通年	単位数	1単位(M1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	メディア授業 [オンデマンド]						

【授業の概要と目標】

通信教育課程での学修に必要なレポートの作成に関する基礎的な知識と能力を養う。大学におけるレポートの特性と要件、疑問からテーマへの展開、資料の探索と読解、論述のための表現と表記の形式、引用や典拠などレポートのルールとマナーなどについて学ぶ。特にルールやマナーの理解に重点を置く。

【課題の概要】

○メディア授業課題

引用ルールを中心に、重要事項の理解度を問う課題。

【授業計画】

○メディア授業

- ・前期（5月～8月）、後期（10月～1月）の年2回開講。
 - ・各章終了時に、章の内容を振り返る「学習チェック」がある。
 - ・全章終了時に評価を目的として記述式の「修了テスト」がある。
- 開講時期や修了テストの予定については「2024年度メディア授業の受講にあたって」を参照すること。

（メディア授業の構成）

- 1回 レポートに取り組もう
- 2回 情報を集めよう
- 3回 資料を読み解こう
- 4回 問い掛けながら考えよう
- 5回 レポートを組み立てよう
- 6回 表現と表記を工夫しよう
- 7回 ルールとマナーを確認しよう
- 8回 仕上がりを追求しよう

【成績評価の方法】

テストによる評価。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

インターネット接続環境があり、PCで本学 Web キャンパスに接続できること

○備考

履修年次は問わない。いずれの学生も早い年次での履修が望ましい。

【教材等】

なし

【その他】

通信障害等のリスクを避けるため、修了テストは有線環境のPCで受験すること。

科目名	レポート入門 II						
授業コード	2540	授業科目名	レポート入門 II			担当者	金子伸二教授
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

通信教育課程での学修に必要なレポートの作成に関する基礎的な知識と能力を養う。大学におけるレポートの特性と要件、疑問からテーマへの展開、資料の探索と読解、論述のための表現と表記の形式、引用や典拠などレポートのルールとマナーなどについて学ぶ。特に表現上のチェックポイントや文章の練り上げ方に重点を置く。

【課題の概要】

○面接授業課題

資料の読解と文章表現を中心に、重要事項の理解度を問う課題。

【授業計画】

○面接授業

1日目午前：大学におけるレポート、資料の探索ほか。

1日目午後：レポートの構成と文章表現ほか。

2日目午前：レポートのルールとマナーほか。

【成績評価の方法】

授業内レポートによる。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

履修年次は問わない。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	コンピュータリテラシー I						
授業コード	0030	授業科目名	コンピュータリテラシー I			担当者	清水恒平教授、須田拓也講師、稲見理講師
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1~4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

コンピュータの使用が日常化し、通信教育の学習を進める上でもコンピュータやインターネットの利用が不可欠になりつつある。しかし、ただソフトウェアを使用しているだけでは、なかなかコンピュータの基本と知識についての正しい理解が難しいという側面もあるだろう。

この科目は、通信教育課程でコンピュータを利用していくことを念頭に置いた、コンピュータやインターネットの必要最低限の知識を学習する、導入的授業と位置づけられる。

面接授業ではコンピュータやインターネットの基本的な知識の講義と併せ、コンピュータでの作業の総合的トレーニングとして Web ページの制作を行う。その作業を通じ、コンピュータの基本的な知識の理解や一連の作業を体験することを目的とする。

【課題の概要】

○面接授業課題

テキストエディタを使用し、HTML を記述することで Web ページを作成する。

【授業計画】

○面接授業

講義と実習を織りまぜて授業を行う。

第1日 全日： コンピュータ（ハードウェアとソフトウェア）の仕組み、インターネットの仕組みの解説／通信教育課程の Web サイト（<https://cc.musabi.ac.jp/>）の紹介／インターネットのセキュリティやマナー、Web ページ作成方法の解説（HTML の書き方、文字、色、画像についての説明を含む）、および Web ページの作成
 第2日 午前： Web ページの作成（続き） 提出・講評

【成績評価の方法】

提出課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備 考

履修年次は問わないが、入学初年度など、早い年次での履修が望ましい。

特に日常あまりコンピュータに触れる機会がなく、「コンピュータ基礎 I」や学1課程は「情報システム基礎 I・I I」、学2課程は「デザイン基礎 I I A・I I B」の履修を考える学生は、これらの科目以前に履修することが望ましい。

スクーリングで使用するコンピュータは、Machintosh を予定している。

導入的授業なのでコンピュータ操作が不馴れな学生へのサポートは適宜行うが、基本的な用語や操作は理解しておけば授業内容の理解が容易である。マウスやキーボードの操作に不安のある学生は、入門者向けの書籍を参考に操作の練習を行うなどし、理解した上で授業に臨むこと。

スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	コンピュータリテラシー II						
授業コード	0040	授業科目名	コンピュータリテラシー II			担当者	清水恒平教授、松本亜実講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出のみ）						

【授業の概要と目標】

この科目では課題作成や連絡に利用しているコンピューターやスマートフォンの利用を見直し、アプリケーション、サービスなどについて理解を深めることを目標とする。

Web利用時に利用しているアプリケーションやサービスの利用方法、提供される情報などについて、どのように提供されているのかどのように利用するとよりよい学習につながるか、などを、自分自身で調査し、図解により知識の定着をすることを目標とする。

【課題の概要】

課題1

「文章でコミュニケーションをとるツール」について自分の利用状況を振り返り、自分がデジタル上「文章でコミュニケーションをとっている」か、複数のツールの調査・報告する。

課題2-1は日常生活に密着している「検索」という行為を、どのように実施しているか、周囲の人々からリサーチを実施、その内容を報告する。

課題2-2では周囲の検索状況の調査から得られたポイントを活用し、Web上でよく求められる「許可」について、指定された3用語のうち1つを選択し調査、説明する。

【授業計画】

教科書『コンピューターと生きる』（武蔵野美術大学出版局 2018年）を通読し、特に第7章「電子メールを使う」第8章「ウェブ（World Wide Web）を使う」第9章「情報護身術」の内容を理解したうえで課題に向かうこと。

自分のコンピューターやスマートフォンの利用や、周囲の利用方法に意識をむけ、調査内容などをよく考えてから、課題作成に向かうこと。

わかりやすいレイアウト、どのように説明すればよいかを自分なりに調査、学習し、取り組むこと。

【成績評価の方法】

提出課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

履修年次は問わないが、入学初年度など、早い年次での履修が望ましい。

インターネットに接続でき、Web ブラウザを使用できるコンピューターを所有するか、もしくは利用できること（OS は問わない）。

【教材等】

○教科書

佐藤淳一『コンピューターと生きる』（武蔵野美術大学出版局 2018年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

なし

科目名	コンピュータリテラシー III						
授業コード	2130	授業科目名	コンピュータリテラシー III			担当者	清水恒平教授、小笠原幸介講師、古田裕講師
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

「グラフィック系ソフトウェア入門」
 コンピュータを利用する上で、ソフトウェアの操作の理解と同様に重要なのが、扱うデータの理解といえる。特に美術・デザイン系の大学においては、グラフィック系ソフトウェアの理解と、各種画像データやグラフィックデータの正しい理解は必須である。
 この科目は、グラフィック系ソフトウェアを利用するための導入的授業という位置づけであり、代表的なソフトウェアの基本的な利用方法、および画像・グラフィックデータの扱い方などの理解を目的とする。

【課題の概要】

○面接授業

Adobe Photoshop、Adobe Illustratorを使用しながら簡単な画像、図形、テキストの作成を行い、最終的にA4サイズ1枚程度の印刷物を作成する。

【授業計画】

○面接授業

第1日 全日

- ・Macintoshの基礎
- ・Adobe Photoshopの基本操作、ビットマップグラフィックス、画像の解像度と色情報、RGBカラーとCMYKカラーなどについての講義と実習
- ・Adobe Illustratorの基本操作、ベクターグラフィックス、デジタルフォント、各種画像のファイル、フォーマットなどについての講義と実習

第2日 午前

- ・前日の講義内容を踏まえ、練習課題の制作

【成績評価の方法】

面接授業の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備 考

入学初年次での履修が望ましい。

特にデザイン情報学科の必修科目または推奨科目では、この科目で使用するソフトウェアを使用する機会が多く、画像データなどに関する知識も必要となるので、それらの科目以前に履修することが望ましい。スクーリングで使用するコンピュータは、Macintoshである。

MacOSの概説や、操作が不慣れな学生へのサポートは適宜行うが、マウスによる基本的なコンピュータの操作や文字入力等、最低限の操作は受講前に理解した上で授業に望むこと。

データバックアップ用のUSBメモリを用意しておくこと。

受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	カメラリテラシー						
授業コード	2140	授業科目名	カメラリテラシー			担当者	上原幸子教授、谷口泉講師
開講期間	通年	単位数	1単位(M1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	メディア授業 [オンデマンド]						

【授業の概要と目標】

写真はデザイン系の学生に限らず、画像に記録することや資料として提示するなど、さまざまな局面で求められることがある。そのためカメラや写真の基礎的な知識は、多くの学生によって必要不可欠な要素である。その知識は、カメラが銀塩からデジタルに進化した現在でも、基本となるレンズの絞りとシャッター速度との関係、すなわち露出という問題が写真の基礎であり、デジタル写真になった現在でも不変と言える。

この科目では、表現としての写真技法ではなく、カメラの基礎的な知識や構造、レンズの特性などの講義を中心に、初歩的なカメラの使い方からその仕組み、レンズの効果など、写真表現の基礎となる技術的な知識の習得を主な目的としている。そして写真のほとんどがデジタルになっている現在では、当然その技術的な問題にも触れることになる。

科目の内容を理解し、その知識を写真表現に活かすことや記録という意味でデジタルアーカイブの質をより一層高めることを主な目的としている。

【課題の概要】

- ・カメラの種類と特性
- ・露出の原理
- ・レンズの絞りとシャッター速度による映像効果
- ・レンズの選択と映像効果
- ・デジタルカメラを正しく使うための知識
- ・デジタルデータを扱う知識

【授業計画】

○メディア授業

前期（5月～8月）、後期（10月～1月）の年2回開講。

各章終了時に、章の内容を振り返る「学習チェック」がある。

全章終了時に評価を目的として記述式の「修了テスト」がある。

開講予定や修了テストの予定については「2024年度メディア授業の受講にあたって」を参照すること

（メディア授業の構成）

- 1章 カメラを選ぶ
- 2章 露出の原理と映像効果
- 3章 露出を操る
- 4章 レンズの役割とオートフォーカスの活用
- 5章 絵づくりと色彩の設定
- 6章 デジタルカメラの基本
- 7章 デジタルイメージング概論1（RAW現像/カラーマネジメント）
- 8章 デジタルイメージング概論2（フォトタッチ基本/用紙選び）

【成績評価の方法】

テストによる評価。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

インターネット接続環境があり、PCで本学 Web キャンパスに接続できること。

○備考

履修年次は問わないが、いずれの学生も早い年次での履修が望ましい。

【教材等】

なし

【その他】

通信障害等のリスクを避けるため、修了テストは有線環境のPCで受験すること。

○参考図書

谷口泉監修 『林檎の秘密 (DIGITAL) すぐに役立つデジタル写真の基礎知識』 (リコーイメージング 2003年)

谷口泉著 『デジタル撮影の適正露出と色彩調整』 (日本カメラ 2008年)

谷口泉著 『カメラマンのためのカラーマネジメント術』 (翔泳社 2011年)

谷口泉著 『デジタルモノクロ撮影完全マスター』 (学研 2014年)

谷口泉監修 『写真を最高に仕上げるRAW現像と写真補正の基本』 (MdN 2015年)

谷口泉著 『もっと撮りたくなる写真の便利帳』 (MdN 2015年)

谷口泉著 『デジタルカメラ撮影講座 ふんいき辞典』 (日経ナショナルジオグラフィック 2018年)

科目名	美術入門						
授業コード	2470	授業科目名	美術入門			担当者	関口雅文教授、室井佳世教授、吉川民仁教授
開講期間	通年	単位数	1単位(M1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	メディア授業 [オンデマンド]						

【授業の概要と目標】

本科目は、主に新入生を対象として、美術領域の広さや表現する楽しさを知ることを目的とする。進行としては、創作に向かう基本的な姿勢や考え方、絵を描く上で考えることになる様々な造形表現などを含めながら、油絵学科の担当教員が順次に講義を行う。

【課題の概要】

講義内容をふまえ、造形の在り方や創作に向かう姿勢についての所管を記す修了テスト（レポート）を行う。

【授業計画】

○メディア授業

講義動画の構成

- 1章 世にも奇妙な絵の話 (1)
- 2章 世にも奇妙な絵の話 (2)
- 3章 世にも奇妙な絵の話 (3)
- 4章 作品の誕生と成立過程 1
- 5章 作品の誕生と成立過程 2
- 6章 作品の誕生と成立過程 3
- 7章 東洋と西洋の違い 1
- 8章 東洋と西洋の違い 2
- 9章 様々な日本画家

前期（5月～8月）、後期（10月～1月）の年2回開講。

各章終了時に、章の内容を振り返る「学習チェック」がある。

全章終了時に評価を目的として記述式の「修了テスト」がある。

開講予定や修了テストの予定については「2024年度メディア授業の受講にあたって」を参照すること

【成績評価の方法】

テストによる評価。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

インターネット接続環境があり、PCで本学 Web キャンパスに接続できること。

○備考

履修年次は問わない。

【教材等】

なし

【その他】

通信障害等のリスクを避けるため、修了テストは有線環境のPCで受験すること。

科目名	デザイン入門						
授業コード	2480	授業科目名	デザイン入門			担当者	上原幸子教授、清水恒平教授、金子伸二教授、荻原剛教授、福井政弘教授
開講期間	通年	単位数	1単位(M1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目（デザイン総合コース必修科目）						
授業形態	メディア授業 [オンデマンド]						

【授業の概要と目標】

本科目は、主に新入生を対象として、デザインの幅広い概念と領域、デザインの基本的な考え方や方法を理解し、また、現代デザインの動向などを学ぶことによって、視野を広げ、知識の吸収や創作意欲の向上につなげていくことを目的とする。日常生活の中で見過ごされがちなモノ・ヒト・コトを観察してデザインに結びつく問題を発見することや、誰もが持っている造形的な感覚と能力を自ら活性化させていくことの重要性を理解し、現代社会におけるデザインの役割や、新しい技術やメディアと結びついたデザインの可能性などについて考える。

授業は、デザイン系の専任教員他がオムニバス形式（交代リレー式）で行う。

この科目は実務経験を有する教員（上原幸子教授、清水恒平教授、荻原剛教授、福井政弘教授）による授業科目である。デザイナーとして豊富な実績を有する各担当教員がデザインの実務経験を基にデザインの分野を紐解く。

【課題の概要】

授業内容を踏まえた修了テスト

【授業計画】

○メディア授業

前期（5月～8月）、後期（10月～1月）の年2回開講。

各章終了時に、章の内容を振り返る「学習チェック」がある。

全章終了時に評価を目的として記述式の「修了テスト」がある。

開講予定や修了テストの予定については「2024年度メディア授業の受講にあたって」を参照すること。

（メディア授業の構成）

イントロダクション デザイン入門について

1章 デザインの基礎体力①

2章 デザインの基礎体力②

3章 環境形成のデザイナー①

4章 環境形成のデザイナー②

5章 デザイン×テクノロジー①

6章 デザイン×テクノロジー②

7章 デザイン×プロジェクト①

8章 デザイン×プロジェクト②

【成績評価の方法】

テストによる評価。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

インターネット接続環境があり、PCで本学Webキャンパスに接続できること。

○備考

デザイン総合コースの必修科目。

履修年次は問わないが、いずれの学生も早い年次での履修が望ましい。

【教材等】

なし

【その他】

通信障害等のリスクを避けるため、修了テストは有線環境のPCで受験すること。

科目名	文学						
授業コード	0050	授業科目名	文学			担当者	大石紗都子准教授
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可、科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

ここでは文学が言語芸術であることを認識することがまず要請される。一般的には、文学は隣接するジャンルである歴史や哲学や思想などと同じような内容と性質を持つものであるように思われがちだが、文学がそれら以上に言語による芸術表現であることを認識しながら、文学の大まかな輪郭や相貌を提供することが本科目の概要である。そこから文学という概念を知的に把握して、受講生みずからが主体的に文学作品に接して自分なりの深い文学体験を明瞭に自覚しつつ、その結果を客観的に報告できるようにすることを目標とする。

【課題の概要】

○通信授業課題

2単位の通信授業であるので2回のレポートが課せられる。それぞれ教科書の内容に即した課題が主であるが、一方で個々の文学作品に接することが求められる。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

面接授業は行わない。まず教科書をよく読んで内容をよく理解した上で、みずから選んだ作品によって自分なりの文学経験を深めて、それを明瞭に自覚することが肝要となる。

【成績評価の方法】

◎科目試験

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書

佐久間保明『文学の新教室』（ゆまに書房 2007年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

教材以外の参考文献については上記図書の巻末を参照のこと。

【その他】

なし

科目名	歴史学						
授業コード	0060	授業科目名	歴史学			担当者	廖赤陽教授、 金田真滋講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可、科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

私たちが社会生活を送る上で、過去の歴史を学び、理解することは大切なことです。この科目では、特に現代の日本で生活する皆さんに是非とも知ってほしい、アジアの歴史を学習します。教科書や学習指導書、参考文献などを読んで基礎的な知識を身につけた上で、出題するレポートを自分の手でまとめることで、私たちの社会がどのような歴史を歩んできて、どのようにして現代の社会が作られてきたのかを学習しましょう。それにより現在の身の回りのできごとや状況への理解も深まるはずです。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

教科書の各章から、自分が関心を持った章の一つを選び、その内容をまとめよ。

○通信授業課題 2

自分と関係がある地域（現住所や出身地などの都道府県・市町村区・地区。またはそれに関連する出来事・文化・人物等）の歴史をまとめよ。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書『もういちど読む 山川世界史 PLUS アジア編』

- 第 1 章 西アジアの古代文明
- 第 2 章 南・東南アジアの古代文明
- 第 3 章 東アジアの古代文明
- 第 4 章 イスラーム世界の成立
- 第 5 章 内陸・東アジア世界の成立
- 第 6 章 モンゴル帝国
- 第 7 章 明・清時代の東アジア
- 第 8 章 イスラーム諸国の興隆
- 第 9 章 イスラーム諸国の危機と改革
- 第 10 章 インド・東南アジアの植民地化
- 第 11 章 東アジアの開港と近代化の試み
- 第 12 章 帝国主義とアジア・アフリカ
- 第 13 章 第一次世界大戦と民族主義の新展開
- 第 14 章 第二次世界大戦とアジア
- 第 15 章 冷戦とアジア
- 第 16 章 グローバル化する世界

【成績評価の方法】

◎科目試験

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備 考

履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書

木村靖二、岸本美緒、小松久男＝編『もういちど読む 山川世界史 PLUS アジア編』（山川出版社 2022 年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024 年）

【その他】

なし

科目名	哲学						
授業コード	0070	授業科目名	哲学			担当者	平岡紘准教授、大厩諒講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可、科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

哲学（フィロソフィア）と呼ばれる営みは、おおよそ紀元前六世紀から五世紀にかけて古代ギリシアで生まれました。フィロソフィアというギリシア語は、二つの部分からなる合成語で、「フィロ=愛し求めること」、「ソフィア=知」を意味します。哲学とは「知を愛し求めること」であり、そうして求められた結果としての「知」を意味するのではないということに留意してください。往々にして、哲学とは過去の人たちが考えてきたのことの集積であり、それゆえ、哲学を学ぶとは、そうした知識をできるだけたくさん覚えていくことであるかのように思われがちですが、それは誤解です。

哲学という営みがいつ、どこで、どのようなものとしてはじまったのかを振り返ることで、哲学に対するこうしたありがちな誤解を取り除くことが、この科目の概要であり目標です。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

教科書をもとに、「功利主義」と「カントの定言命法」を簡潔にまとめたうえで、「良い（善い）」、「悪い」についての論述を求める課題。

○通信授業課題 2

教科書をもとに、プラトンの「洞窟の比喩」を簡潔に説明したうえで、教科書の筆者が哲学という営みをどのようなものとして捉えようとしているかをまとめる課題。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

- 第1章「哲学とは何か」
- 第2章「精神の発見」
- 第3章「ソクラテスと自己の追求」
- 第4章「道徳的価値の探求」
- 第5章「神の存在」
- 第6章「現実とは何か」

【成績評価の方法】

◎科目試験

教科書をもとに出題する。
出題内容は、学習指導書に記載。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書

ルイス・E・ナヴィア『哲学の冒険』富松保文訳（武蔵野美術大学出版局 2002年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

○参考書

ナイジェル・ウォーバートン『入門 哲学の名著』（ナカニシヤ出版 2005年）

ウィル・バッキンガム『哲学大図鑑』（三省堂 2012年）

科目名	社会学						
授業コード	0080	授業科目名	社会学			担当者	小幡正敏教授
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可 科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

現代社会のあり方と諸問題を、家族・労働・テクノロジー・グローバル化などの具体的な諸テーマにそくして考えてみる。また、近代社会の成立とともに社会学という学問が登場してきた理由や背景についても学ぶ。教科書に書いてあることを機械的に読んでレポートを書くのではなく、自分で調べること、自分で考えることが大切である。そのためには、新聞、雑誌、インターネットなどで情報収集すること、書店や図書館や資料館に出向くこと、現場を歩いてみるなどが不可欠となる。好奇心の旺盛な人向き。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

教科書のいずれかの部から任意の1つの章を選び、そのテーマについて理解したことを具体例などをあげながら説明する。

○通信授業課題 2

課題1で選んだテーマについて「コミュニケーション」という視点から考察を加える。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書のいずれかの部から任意の1つの章を選んで学習する

第1部：近代と社会学

- 1 近代と新しい社会認識：近代社会の成立とマルクス
- 2 近代との格闘：デュルケームとウェーバー
- 3 近代の暗黒：戦争とトラウマ

第2部：社会の舞台

- 1 近代家族の変容：親密性と私秘性の高まり
- 2 連帯の変容と社会保障：福祉国家の解体と保険による生一政治
- 3 労働と職場：フォードイズムからポストフォードイズムへ

第3部：社会学と現代

- 1 テクノロジーと社会：鉄道・自動車・原発・メディア…
- 2 新しい行為主体：子ども、老人、女性、障害者、クイア…
- 3 グローバル化と現代社会：地域社会と生活空間の変容

補論

Doing Sociology：社会学をすること

【成績評価の方法】

◎科目試験

教科書の内容および授業課題に準じた問題（記述式）を出す。

教科書を通読しておくことが望ましい。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書

橋本梁司・小幡正敏著『社会学のまなざし』（武蔵野美術大学出版局 2004年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

参照すべき事典類として『現代社会学事典』（弘文堂）、『福祉社会事典』（弘文堂）などを挙げておく。

科目名	経済学						
授業コード	0090	授業科目名	経済学			担当者	新堂精士講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可 科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

経済学を学ぶ意味はいくつかあるが、市民として経済学を学ぶ意味を考えるのなら以下の2つではなかろうか。第一に、現代社会において私達の社会に大きな影響を及ぼすと考えられる「格差・経済成長・デフレ・貧困・失業・貿易摩擦・エネルギー・環境」などの問題の解決には、経済学の知識が必須であること。第二に私達が日常行う様々な意思決定において経済学の考え方が役立つということである。この授業では主に後者、したがって経済学の考え方を学ぶことを目標とする。具体的には日本人の優れた経済学者である宇沢弘文先生が経済学の考え方について書かれた本あるいは過去の偉大な経済学者について森嶋通夫先生をはじめ日本の一流の学者が解説した本を読んでいくことで経済学に固有の考え方の習得を目指す。なお、過去の経済学者の考え方の単なる解釈を問題にしているわけではないことに注意してほしい。過去の経済学者の考え方が実際どうであったのかという観点はそれほど重要ではなくて、現代経済（学）の視点から見て過去の経済学者の評価できる点あるいは、彼らから学べる点を掴もうというのがこの科目の趣旨である。もう少し言えば、過去の経済学者を通して現代経済学の考え方の一部あるいはその思想的背景を学ぼうというのがこの科目の目的であることをしっかり認識して課題に取り組むこと。

○学習の到達目標

自身が選んだ経済学者あるいは学派の考え方のポイントをおおむね理解する。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

教科書1『経済学の考え方』、教科書2『経済学者はこう考えてきた』または参考書1『思想としての近代経済学』、参考書2『世界を変えた経済学の名著』の中から（以上の4つの教科書あるいは参考書から）自分が興味を持った章を選び、まず、その章を要約し、自分で調べたこと等を踏まえて、自分なりの考察を加えレポートとする。

○通信授業課題 2

教科書1『経済学の考え方』、教科書2『経済学者はこう考えてきた』または参考書1『思想としての近代経済学』、参考書2『世界を変えた経済学の名著』の中から（以上の4つの教科書あるいは参考書から）自分が興味を持った章を選び、まず、その章を要約し、自分で調べたこと等を踏まえて、自分なりの考察を加えレポートとする。あたり前であるが課題1とは違う章・節を選ぶこと。

【授業計画】

教科書を使用する。

1. 『経済学の考え方』の1章を読む
 2. 『経済学の考え方』の2章 アダムスミスの国富論
 3. 『経済学の考え方』の3章 リカードからマルクスへ
 4. 『経済学の考え方』の4章 近代経済学の誕生
 5. 『経済学の考え方』の5章 ソーンストン・ヴェブレン
 6. 『経済学の考え方』の6章 ケインズ経済学
 7. 『経済学の考え方』の7章 戦後の経済学
 8. 『経済学の考え方』の8章 ジョーン・ロビンソンの経済学
 9. 『経済学の考え方』の9章 反ケインズ経済学の流行
 10. 『経済学の考え方』の10章 現代経済学の展開
 11. 『経済学者はこう考えてきた』第一章 資本主義とは何か
 12. 『経済学者はこう考えてきた』第三章 教科書に馴染まなかった人たち
 13. 『経済学者はこう考えてきた』第四章 経済学者の思考法を比較する
- ・11～13回についてはそれぞれ各1節を選んで学習してよい。

【成績評価の方法】

◎科目試験

科目試験。

科目試験は持ち込み不可の論述試験1から2問を基本とする。論述試験の内容は、教科書に出てくる経済学者あるいは教科書の1章を選んで、考え方を要約し、それに対する批判的な検討を加えて述べるというものである。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書

1. 『経済学の考え方』 宇沢弘文 岩波新書 53 1989年
2. 『経済学者はこう考えてきた』 根井雅弘 平凡社新書 893 2018年

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

- ・課題1・2共に教科書1、2に加え、参考書1、2から章を選んでもよい。
- ・教科書2『経済学者はこう考えてきた』からレポート課題を選ぶ場合は、「章」単位ではなく、個別の経済学者等について書かれた「節」を選んでもよい。なお、対象となる「章」は第1章（除く「疎外された労働」マルクス）、第3章、第4章とする（第2章、第5章も対象外とする）。さらに、レポート課題として第1章「有効需要の原理」（ケインズ）を選んだ場合は、もう一つの教科書『経済学の考え方』のIV章「ケインズ経済学」を必ず参照し、レポートの内容に生かすこと。
- ・参考書2については2章F・ブローデル、17章ピーター・ドラッカーは対象外である（18章ハーバート・サイモンは選択可能である）。
- ・2章以上にわたって取り上げられた経済学者、例えば『思想としての近代経済学』のケインズやパレート等を一つの課題で取り上げてもよい。

○参考書

1. 『思想としての近代経済学』森嶋通夫 岩波新書 321 1994年
2. 『世界を変えた経済学の名著』日本経済新聞社編 日経ビジネス文庫 2013年

科目名	憲法						
授業コード	0100	授業科目名	憲法			担当者	志田陽子教授、川口かすみ講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可 科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

この講座では、わたしたちが知っておくべき権利やルールのうち、憲法で保障されている事柄を学ぶ。（著作権法をはじめとする知的財産権の分野については、「著作権法」の講座で学ぶ）。

法学系の科目を学習するにあたっては、自分をとりまく社会を、問題意識をもって見ることが出発点となる。そしてその問題意識を、憲法上わたしたちに保障されたさまざまな「人権」や、民主的な政治システムと関連づけて考えることが必要となる。本講座では、具体的な社会問題について考えながら、「法の精神」を生かした思考を実践することをめざす。

【課題の概要】

まず憲法の全体像をつかむため、教科書の全体を通読してほしい。それからレポート課題に進むこと。

レポート課題では、社会の中で実際に起きた事例（裁判例）を素材として、具体的に考える。

課題条件の中には「関連する法律（憲法）の条文を挙げること」という条件があるが、これについてはインターネットや図書館で最新の法令を参照してほしい。

課題 1・課題 2 とも、学習指導書にあるとおり、参考文献を明示すること。

○通信授業課題 1

教科書と「例題」を参考にして、各自がもっとも関心をもったテーマをひとつ選び、具体的な事例を参考にしながら論じる。そのさい、「論点」を明確にする作業に力を入れてほしい。課題 1 では、自分が選んだテーマと事例の正確な把握ができているか、これを考察するさいの「論点」を明確に意識できているかを主な評価対象とする。

○通信授業課題 2

課題 1 で論じたテーマ・事例・論点について、自分の見解を論じる。その前提として、課題 1 の添削指導や資料などを参考にすること。他人の著作（新聞記事や専門家の解説）と自分の論説とを区別して記述できているか、結論で書いている内容と自分で設定した論点とがかみ合っているかを、重要な評価対象とする。

* 課題については、学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

まず教科書全体を読み、憲法の内容について総合的に学習する。このとき、憲法が誰に向けられた法か（憲法は国家に向けられた法である点で、他の法律と異なる）、「立憲主義」とはどのようなものか、なぜ憲法が「最高法規」なのか、といった基礎的な共通前提について、各自で把握しておいてほしい。

次に、学習指導書に掲載した「例題」を参考にしながら、自分が関心をもって選んだテーマについて、もう一度教科書の該当する章を注まで読み込む。教科書の注や参考文献一覧に挙がっている資料も参考にして、より詳しく学習した上で、自分の見解を述べよう。

【成績評価の方法】

◎科目試験

大まかな出題内容は、学習指導書に記載。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書

志田陽子『表現者のための憲法入門 第二版』（武蔵野美術大学出版局 2024年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

受講者のみなさんは、レポート作成のためにも、また、本講座での学習を生きたものにするためにも、教科書による学習と同時に、新聞報道などを通じて、日常の中でさまざまな素材に接する機会を作ってほしい。

科目名	民俗学						
授業コード	0110	授業科目名	民俗学			担当者	亀井好恵講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（郵送提出のみ）						

【授業の概要と目標】

わたしたちの生活には、古い時代の民俗文化を投影しているものが意外と多い。この科目は、ふだん見過ごしがちな奉納物、年中行事を注意深く観察することで、庶民信仰のあり方や何げなく行っている行事の意味を考えていこうとする。

課題で取り上げるような民俗文化は、表面上は新しい様式が主流になったように見えてもその根底には庶民の願いが流れていると考えられ、またある行事が変化するには変化の要因が必ずあると考えられる。そこで、ここではまずは民俗文化の様相に触れることを手始めとし、変容しつつも伝承される民俗文化を考えたい。

【課題の概要】

○通信授業課題1「寺社・小祠に寄進された奉納物を調査し、庶民信仰のあり方について考察せよ」

対象とする奉納物には、たとえば鳥居や玉垣、常夜燈、狛犬、絵馬などさまざまな種類があるが、これらの形態や銘文等の観察・記録をもとに、必要に応じてこのことを熟知する人に話を聞く。以上の調査を終えたうえで、文献や資料を参考とし、奉納する庶民の信仰のあり方を考察すること。

○通信授業課題2「自分の住んでいる地方または自分の家の盆、あるいは正月行事を調査し、考察せよ」

盆あるいは正月行事についてできるだけ全体を見ることが望ましいが、そのなかの一部、例えば盆踊り、盆礼、小正月の行事などを重点的に取り上げてもよい。行事の変化（消滅・変容・創造）の様相を視野にいれた考察が望ましい。

どちらの課題にも調査対象のスケッチまたは写真を必ず添付すること。レポート本文を補充するような資料があればそれも添付すること。それらの添付資料には学籍番号、氏名を記入すること。

各自の参考文献、引用文献、調査年月日、場所、話を聞いた人の氏名・年齢などはレポートの最後に必ず明記すること。

*課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

各課題は、現地での調査が前提となっている。ふだん見過ごしがちなこれらの調査対象を注意深く観察、調査のうえ、まとめあげるよう心掛けること。

また、具体的な事実と各自が行う解釈とは明確に区別して記述する必要がある。

それぞれの課題を調査し、まとめあげるには相当の日数が必要となる。1つの課題が終了したら速やかに提出し、講評を受けること。

【成績評価の方法】

提出課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書

宮本常一『民俗学への道』（未来社 1983年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

科目名	心理学						
授業コード	0120	授業科目名	心理学			担当者	荒川歩教授、 浅井千絵講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可 科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

心理学と造形活動というのは、パラレルな2つの世界です。心理学も造形活動も、人(私)にとって世界がどのようにあるかを考え、私はなぜこのようにあるのかを考え、そしてどうすれば人に何かを伝えることができるのかについて考えるので、その意味で2つの領域の重なる部分は少なくありません。ところが、その方法がまるで違います。造形活動では、ある意味で現象学的に立ち現れている現実に対して葛藤して表現を行います。心理学は、還元論的に要素に分けて実験や調査を行い実証的に分析します。造形活動をしている人から見れば、造形活動が簡単に言葉にせずに大切に画面の中で表現していることを、心理学は簡単に言葉や数字に置き換えてしまっ、それで扱える範囲で研究しているように見えるかもしれません。

この授業のテーマはパラレルワールドを知ることです。造形に関わる心理学の研究を例に、還元論的に要素に分けて実験や調査で得られた知見から見た、世界、人、造形活動について学ぶことを通して、自らの視点を改めて理解するとともに、心理学的な考え方もできるようになることを目指します。

【課題の概要】

以下課題1、2とも「論理的」な文章表現を重視する。

○通信授業課題1

教科書に基づいて、造形を下支えする心理的メカニズムについて分析する課題。

○通信授業課題2

教科書の各章、及び通信授業課題1の結果を参考に(あるいは応用)して、作品を心理学的に考察する課題。

*課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

[通信授業]

教科書を使用。

教科書

第1章 ものを見るとはどういうことか：世界は色づいてなんていないのか！？

第2章 ぼくらの視覚のチューニング方法：世界の共有可能性について

第3章 脳は世界をどう再構成するか：人間は機械だってあなたはいうけれど

第4章 イメージはどこから来るのか：丸は四角よりも甘いのか

第5章 美的なバランスの起源：偏りはこの期に及んで何を語るのか

第6章 醜いけど美しい：わたしがこれを美しいというのを誰も思いとどめさせることはできない

第7章 絵やデザインのある風景：異次元への入口を探して

第8章 動物は造形をおこなうか：目の前のリング、心の中のリング、絵の中のリング

第9章 ヒトが描く絵はどのように変化していくのか：痕跡は語る。様々な価値の時代を

第10章 絵には何が現われるか：タヌ吉悩む！？

第11章 創造性とはなにか：人はいつこの壁の向こう側に行けるのか

【成績評価の方法】

◎科目試験

教科書の該当箇所から出題(記述式)。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書

荒川歩『はじめての造形心理学－心理学、アートを訪ねる』(新曜社 2021年)

※初版には一部誤記があります。

2024年3月15日付Webキャンパスのお知らせ"「心理学」履修者へ"に正誤表を再アップロードしていますので、履修者は各自、ダウンロードしてください。なお、月刊誌3・4月号にも同じ正誤表を掲載します。

郵送希望の場合は、5月号以降の月刊誌に、請求方法を掲載します。

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024年度』(武蔵野美術大学通信教育課程 2024年)

【その他】

なし

科目名	色彩学						
授業コード	0150	授業科目名	色彩学			担当者	江森敏夫講師、井上弘介講師
開講期間	通年	単位数	4単位(T4)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可）						

【授業の概要と目標】

色彩学は英語では Science of Color といい、光学や生理学、心理学などの学問との関連が深く、“学際的”であるのが特徴である。学生の中には「色の勉強など必要ない。経験だけで十分だ」と考えている人がいるかもしれないが、「色とは何だろう？」という疑問に答えられる人はきわめて少ない。

本講では、この疑問に答えるのに必要なさまざまな知識を学ぶ。たとえば、「色は光である」、「色は目ではなく脳で見えるものである」、「色は情報である」、「色は数式で表せる」、「色は感情を操る」等々。そのために教科書を精読し、4つの課題に取り組んでもらう。そして、通学生なら教室で聞き流すところを自分の目と手足を使って確かめ、その成果を報告してもらおう。これにより、色に対する理解が深まり、色による表現力が向上することを期待したい。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

色を記号や数値で表す表色系（ひょうしょくけい）について調べ、白から黒までの見た目に等間隔のグレースケールを作成する課題。

○通信授業課題 2

スーラによって編みだされた点描画法とテレビ画面等にも応用されている並置加法混色について研究し、自画像（顔）を描く課題。

○通信授業課題 3

色の対比と同化について教科書で学習し、この2つの現象を踏まえたブックカバーのデザインを行う課題。

○通信授業課題 4

色（赤や青など）の連想を調べ、教科書のデータと比較・検討する課題。

*課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書のすべての章を学習する。

色の世界の成り立ち／色の表し方／混色の原理と応用／色の感覚的・知覚的作用／色の認知的・感情的作用／色の美的作用

【成績評価の方法】

提出課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

履修年次は問わない。但し、1・2年次に履修することが望ましい。

【教材等】

○教科書

千々岩英彰『色彩学概説』（東京大学出版会 2001年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

各課題レポートの提出順序は特に定めない。

科目名	著作権法						
授業コード	0170	授業科目名	著作権法			担当者	志田陽子教授、比良友佳理講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可 科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

この授業では、わたしたちが知っておくべき権利やルールのうち、とくに「表現」に関わる法律を具体的に学ぶ。この分野に属する法律は、憲法 21 条「表現の自由」とこれに関連する法律、また、著作権法をはじめとする知的財産権の分野の法律である。

法学の分野について学習するためには、自分をとりまく社会を、問題意識をもって見ることが出発点となる。そしてその問題意識を、わたしたちに保障されたさまざまな「権利」や、民主的な制度や理念（公共性）と関連づけて考えることが必要となる。本授業では、具体的な問題について考えながら、こうした思考を実践することをめざす。

【課題の概要】

まず教科書の全体を 1 度、通読してほしい。それからレポート課題に進むこと。

レポート課題では、社会の中で実際に起きた事例（裁判例）を素材として、具体的に考える。

課題の詳細については、学習指導書を必ず参照すること。また、課題条件の中には、「関連する法律（憲法）の条文を挙げること」という条件があるが、課題作成にあたって、インターネットや図書館で最新の法令を参照してほしい。

また、課題 1・課題 2 とも、学習指導書にあるとおり、参考文献を明示すること。とくに本授業では、著作権法上の「引用のルール」を実践できているかどうか大きな評価対象となる。

○通信授業課題 1

「例題」を参考にして、各自がもっとも関心をもったテーマをひとつ選び、必ず具体的な事例を参考にしながら論じる。そのさい、「論点」を明確にすることを目標としてほしい。課題 1 では、自分が選んだテーマと事例の正確な把握ができているか、これを考察するさいの「論点」を明確に意識できているかを、主な評価対象とする。

○通信授業課題 2

課題 1 で論じたテーマ・事例・論点について、自分の見解を論じる。その前提として、添削指導、新たに読んだ資料などを参考にすること。他人の著作（新聞記事や専門家の解説）と自分の論説とを区別して記述できているか、結論で書いている内容と自分で設定した論点とがかみ合っているかを、主な評価対象とする。

【授業計画】

まず、教科書全体を読み、対応する条文を参照しながら、「表現の自由」や「知的財産権」や「情報社会のルール」について総合的に学習する。この分野ではさまざまな法律が関連しあいながら登場するが、教科書を読み進めながら、今自分が学習している権利（問題）がどの法律で扱われている権利（問題）なのかを常に把握するように努めること。とくに憲法上の「人権」とそれ以外の多数の権利との区別、「憲法」と「著作権法」との区別をしっかりと意識してほしい。

次に、学習指導書に掲載した「例題」を参考にしながら、自分が関心をもって選んだテーマと事例について、もう一度教科書の該当箇所と条文を読み、他の資料も参考にして、より詳しく学習する。課題条件にしたがった課題作成をつうじて、法学的な思考を実践する。

【成績評価の方法】

○科目試験

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書

志田陽子・比良友佳理『あたらしい表現活動と法』（武蔵野美術大学出版局 2018 年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024 年）

【その他】

受講者のみなさんは、レポート作成のためにも、また、本授業での学習を生きたものにするためにも、教科書による学習と同時に、各人で、新聞報道などを通じて、日常の中でさまざまな素材に接する機会を作ってほしい。

科目名	音楽論						
授業コード	0180	授業科目名	音楽論			担当者	白石美雪教授、丸山洋司講師
開講期間	通年	単位数	4単位(T4)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可 科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

美術大学の学生にとって、音楽とはどのような存在であろうか。音楽を日々の生活の大切な友としている学生もいれば、あまり音楽に興味がない学生もいるだろう。「音楽論」の授業では、時代、国、ジャンルといった枠組みにとらわれることなく、「音楽とは何か」「声」「楽器」「音楽の伝え方」「音楽とパフォーマンス」「聴取とメディア」「音楽と想像力」「音楽を語る」「21世紀における音楽の諸相」といった観点から音楽文化を広く見渡していく。

音楽に親しんでいる学生は、これまでとは異なる音楽への視点を得て、自らの音楽観を一層深みのあるものにしていただきたい。あまり音楽に馴染みのない学生については、本科履修が、音楽の世界の探究を始める切っ掛けになることを願う。

【課題の概要】

○通信授業課題1～4

教科書を以下のように4つに分け、各部分を各回（全4回）の課題にあてる。

課題1 序章～第1章

課題2 第2章～第4章

課題3 第5章～第7章

課題4 第8章～終章

該当部分に記されている音楽家、楽曲、術語、内容などと関連づけて独自のテーマを設定し、論述する。

作成の上での留意点：

- ・テーマ設定の切っ掛けとなった教科書の部分（章や節など）をレポートの冒頭に記すこと。
- ・テーマと関連のある音・音楽を聴くこと。
- ・音楽体験についての詳細な報告を期すこと。
- ・本論の内容を簡潔に示すタイトルを考え、「課題」欄に記すこと。
- ・論考作成にあたって参照した音源、資料のデータを記すこと。

【授業計画】

序章

第1章「音楽とは何か」

第2章「声」

第3章「楽器」

第4章「音楽の伝え方」

第5章「音楽とパフォーマンス」

第6章「聴取とメディア」

第7章「音楽と想像力」

第8章「音楽を語る」

第9章「21世紀における音楽の諸相」

おわりに（終章）

【成績評価の方法】

◎科目試験

教科書の内容を理解した上で、独自の考察・探究を深めて臨んで欲しい。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書

白石美雪編『音楽論』（武蔵野美術大学出版局 2016年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

なし

科目名	数学						
授業コード	0130	授業科目名	数学			担当者	正井秀俊准教授、嶺山良介講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可 科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

人間の精神と文化は、有史以来、パターンを捉え、その基本法則や性質を探求する思考体系を発展させて来た。その思考体系のひとつである数学は抽象的なパターンの科学である。このような現代的な認識に立って、数学的な見方や考え方とその重要性を身近な題材や馴染み深い図形を通して明らかにしていく。教科書では、数のパターンに関する実用的な話題と、形のパターンに関しては、私たちの思い込みによって 2000 年以上もの間異なる見解を許容することができなかった幾何学の歴史を背景に、それまでの幾何学的な見方からの自立として生まれた新しい幾何学、さらに複雑な自然を捉えようとする現代的な幾何学のひとつを取りあげた。一方で、数学の言葉で語られる概念を理解するには、時には単調な基礎的訓練も必要である。Task（タスク）と呼ぶ実技を含む問題演習によって、テーマに関心を持ち、理解を深めることができるよう手引きした。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

下記授業計画の教科書指定範囲にある Chapter 2、3（Chapter は章のこと）を中心に出题する。

○通信授業課題 2

下記授業計画の教科書指定範囲にある Chapter 6、7 を中心に出题する。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書の Chapter 1、2、3、6、7 を使用する。

Chapter 1 パターンの科学

数学とは／クイック・トリップ／数学の言葉

Chapter 2 数当てゲームをしよう

マジック・カード／フロッピーディスクは原稿用紙で何枚分？／アルゴリズム

Chapter 3 いまさら電卓？

美のある秘密／電卓を見直そう／この先どうなるの？／フィボナッチ数列

Chapter 6 多角形と多面体

フラットランドのタイル職人／立体では／タイルやブロックを作ろう

Chapter 7 見方を変える

新しいアイデアが生まれた／ふたたび多面体／新しい幾何学

【成績評価の方法】

◎科目試験

教科書の Chapter 1 を除く上記授業範囲を中心に出题する（記述式）。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書

圓山憲子『もういちど数学を』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

数学を学ぶには、自ら手を動かし自ら問いを立て、積極的に考えることが大切です。その試行錯誤の中で、数学が持つ美しさを感じとり、面白さを発見されることを願っています。

科目名	生物学						
授業コード	0140	授業科目名	生物学			担当者	伊藤海講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可 科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

「生物学」には、幅広い分野の学問が含まれている。高等学校理科教育の生物では、遺伝学、生理学、植物学などを網羅的に勉強する。本大学は美術大学である。そのため、この授業では、生物の体の「かたち」について学ぶ。生物学の中でも特に、解剖学と比較形態学に焦点をあてる。

ヒトと動物のからだのしくみを比べ、これらがどのようにして進化してきたかを学ぶことで、からだについての認識を深めることを目的とする。私達の祖先となる生物は基本的な構造を変化させることなく、わずかな改変を積み重ねることで、様々な生物へと進化した。我々もそのさまざまな生物の一種である。この授業で使用する教科書「ヒトのなかの魚、魚のなかのヒト」では、魚類からヒトが誕生するまでの進化の経緯が解りやすく説明されている。自分のからだを教材にしながら、解剖学や形態学を通して、からだのかたちについての理解を深めてほしい。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

教科書 1～5 章の要約を 1 章ごとに簡潔にまとめること。

○通信授業課題 2

教科書 6～11 章の要約を 1 章ごとに簡潔にまとめること。

留意事項

教科書を含む引用を明記すること。

インターネットからの引用は不可。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書を使用する。

(1) 内なる魚を見つける (2) 手の進化の証拠を掴む (3) 手の遺伝子のかくも深き由緒 (4) いたるところ歯だらけ (5) 少しずつやりくりしながら発展していく (6) 完璧なボディプラン (7) 体づくりの冒険 (8) においのもとを質す (9) 視覚はいかにして目の目を見たか (10) 耳の起源をほじくってみる (11) すべての証拠が語ること

() 内は教科書の章を示す。

【成績評価の方法】

科目試験の評価による。

科目試験は教科書全般から出題する（記述方式）。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書

ニール・シュービン『ヒトのなかの魚、魚のなかのヒト 最新科学が明らかにする人体進化 35億年の旅（ハヤカワ文庫 NF）』（早川書房 2013 年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024 年）

【その他】

○推奨参考文献

遠藤秀紀『哺乳類の進化』（東京大学出版会）

日本進化学会『進化学事典』（共立出版）

『岩波生物学辞典』（共立出版）

科目名	物理学						
授業コード	0190	授業科目名	物理学			担当者	川崎雅裕講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可 科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

私たちの周りには、様々な興味深い自然現象があり、一見するとそれらがどうして起こるのか不思議に思うことが多くあります。なぜ空は青いのか、なぜ夕日は赤いのかなどの日常生活の中で感じる多くの疑問、さらには、物質は何でできているのかといった深く物事を考えることによって持つ疑問、それらの疑問に答えるのが物理学です。物理学は自然現象を記述する最も基本的な学問として発展してきました。物理学の魅力は少数の基本的な法則から驚くほど様々な現象が理解できることです。例えばニュートンの3つの基本法則はたった数行の文章または数式を使って書くことができますが、これによって太陽系の惑星の運動などあらゆる物体の運動を正確に予言することができます。

物理学は実験あるいは観測によってその正しさを確かめていく科学で、実験によって新しい発見があればそれを説明する理論が構築されて、さらにその理論が新しい現象を予言する。そして、実験がその予言が正しいかどうか確かめるといったように実験と理論がキャッチボールをするようにして発展していくのが物理学です。このような物理学の基本的な手法や考え方を理解することがこの科目の目標です。具体的には、ニュートンの法則、光や音の性質、電気と磁気などに関して学びます。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

自分でできる簡単な物理実験を実際に行い、その内容と結果などについてレポートとしてまとめよ。

○通信授業課題 2

教科書の中で最も印象的だった物理現象を取り上げて説明せよ。

【授業計画】

○通信授業

教科書の第9講までを使用する。内容は

1. 物理学を学ぶことの特権
2. 物理学は測定できなければならない
3. 息をのむほど美しいニュートンの法則
4. 人間はどこまで深く潜ることができるか
5. 虹の彼方に
6. ビッグバンはどんな音がしたか
7. 電気の奇跡
8. 磁気の実験
9. エネルギー保存の法則

【成績評価の方法】

○科目試験

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書

ウォルター・ルーウィン著 東江一紀訳 『これが物理学だ!』（文藝春秋 2012年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

なし

科目名	自然科学概論						
授業コード	0200	授業科目名	自然科学概論			担当者	川崎雅裕講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可 科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

人間は大昔から夜空を眺めそこにある星や銀河の美しさや壮大きさに感動し、宇宙はどうやって始まったのか、宇宙の果てはどうなっているのか、宇宙は将来どうなっていくのか、といったことを考えてきた。このように宇宙は身近でありながら深遠で謎めいたものとして私たちの好奇心を刺激してくれるものです。宇宙創生の理論は古代では神話として人間の想像力のみを用いて考えられてきましたが、ようやく 17 世紀になって望遠鏡を用いた観測が行われるようになり、宇宙は自然科学の対象として学問的に研究が行われるようになりました。近年における宇宙論の発展は目を見張るものがあり、誕生間もない時期から現在に至るまでの宇宙の進化が物理法則に基づいて理解されるようになってきました。

この科目では自然科学の中でもっとも古くから人々を魅了してきた宇宙論を学ぶことによって、自然科学の手法や考え方、科学的発見に至る科学者たちの努力を知ってほしい。具体的な内容は、宇宙膨張、宇宙を満たしている光である宇宙背景放射、宇宙の最初の 3 分間に起こる元素の合成などを学ぶ。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

教科書を読んで宇宙マイクロ波放射がどういうものか説明しなさい。

○通信授業課題 2

次の 2 つのうちから 1 つを選んで答えなさい。

1. 教科書を読んで、宇宙の最初の約 3 分間までに陽子と中性子からヘリウムが合成される過程を説明しなさい。
2. 宇宙膨張や初期宇宙で起こる現象について、疑問に思われることを取り上げ、それを自分なりに説明しなさい。

【授業計画】

○通信授業

教科書では以下の項目について説明しています。

1. 宇宙の膨張
2. 宇宙マイクロ波背景放射
3. 熱い宇宙の処方
4. 最初の 3 分間
5. 最初の 100 分の 1 秒間
6. 1976 年以降の宇宙論

【成績評価の方法】

◎科目試験

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書

ワインバーグ著 小尾信彌訳 『宇宙創成はじめの 3 分間』（筑摩書房 2008 年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024 年）

【その他】

科目名	英語 I							
授業コード	0210	授業科目名	英語 I				担当者	野口克洋教授、相原優子教授、トーマス・マイヤー教授、小澤智子教授、水谷明子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定		
科目区分	造形文化科目/文化総合科目							
授業形態	通信授業（郵送提出のみ 科目試験あり）							

【授業の概要と目標】

教科書として Rosemary Davidson の What is Art ? (Oxford University Press) を使用する。この書は読者に美術・デザインの作品を見たり、考えたり、制作したり、発見したりするための指針を分かりやすく与えようと書かれたものである。

この教科書を用いることによって、英語の基礎力の充実をはかるとともに、英語を通じて一般教養を身につけ、あわせて専門分野で必要となる美術・デザイン関係の書を英語で読む学力を養うことをめざす。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

教科書の P.4 ～ 17 の範囲でレポート課題。

○通信授業課題 2

教科書の P.18 ～ 29 の範囲でレポート課題。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書の第 1 章から第 3 章を使用する。

第 1 章 Looking and seeing

第 2 章 What's art for?

第 3 章 Magic and making things happen

【成績評価の方法】

◎科目試験

教科書の該当部分を中心に出題する（記述式）。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書

Rosemary Davidson, What is Art ? (Oxford University Press)

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024 年）

『英語 I 【解説書】』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2002 年）

【その他】

なし

科目名	英語 II							
授業コード	0220	授業科目名	英語 II				担当者	野口克洋教授、相原優子教授、トーマス・マイヤー教授、小澤智子教授、水谷明子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2～4	指定		
科目区分	造形文化科目/文化総合科目							
授業形態	通信授業（郵送提出のみ 科目試験あり）							

【授業の概要と目標】

教科書として Rosemary Davidson の What is Art ? (Oxford University Press) を使用する。この書は読者に美術・デザインの作品を見たり、考えたり、制作したり、発見したりするための指針を分かりやすく与えようと書かれたものである。

この教科書を用いることによって、英語の基礎力の充実をはかるとともに、英語を通じて一般教養を身につけ、あわせて専門分野で必要となる美術・デザイン関係の書を英語で読む学力を養うことをめざす。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

教科書の P.30 ～ 49 の範囲でレポート課題。

○通信授業課題 2

教科書の P.50 ～ 67 の範囲でレポート課題。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書の第 4 章から第 6 章を使用する。

第 4 章 Telling a story

第 5 章 Face to face

第 6 章 Body language

【成績評価の方法】

◎科目試験

教科書の該当部分を中心に出题する（記述式）。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

「英語 I」の単位を修得していること。

ただし、編入学生で「英語 I」に相当する学習歴を有する場合は履修できる。

○備 考

なし

【教材等】

○教科書

Rosemary Davidson, What is Art ? (Oxford University Press)

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

『英語Ⅱ 〔解説書〕』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2002年）

【その他】

なし

科目名	フランス語初級						
授業コード	2160	授業科目名	フランス語初級			担当者	藤田尊潮教授、小幡一雄講師、今村純子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可 科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

初めてフランス語を学ぶ学生を対象に初級文法の習得と日常会話の練習を主な目的としたフランス語入門の授業です。教科書には『パリのミュゼでフランス語!』を使用します。芸術の都パリには、その名の通り数多くの美術館があります。世界的に有名なルーブルやオルセー美術館、ポンピドゥーセンター内の国立近代美術館、ピカソ美術館、クリュニー美術館、また生前の芸術家の住まいやアトリエを改造したロダン、モロー、ザッキンなどの個性的な美術館もあります。この授業は、そのようなパリの美術館紹介を通してフランス語を学べるようにという意図で開設されています。フランス語の発音とつづり字の読み方の基本から始めて文法の規則を少しずつ学び、同時に、実際にパリの美術館を訪れたときに役に立つ会話の練習をしていきます。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

教科書の「フランス語の文字と発音」～ Leçon 5 の範囲でレポート課題。

○通信授業課題 2

教科書の Leçon 6 ～ Lecture の範囲でレポート課題。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

「フランス語の文字と発音」から Lecture までを使用します。

「フランス語の文字と発音」

Leçon 1 Le Musée du Louvre

Leçon 2 Le Musée d'Orsay

Leçon 3 Le Musée National de l'Orangerie

Leçon 4 Le Musée d'art moderne

Leçon 5 Le Musée de Cluny

Leçon 6 Le Musée Jacquemart-André

Leçon 7 Le Musée Gustave Moreau

Leçon 8 Le Musée du cinéma - Henri Langlois

Leçon 9 Le Musée Rodin

Leçon 10 Le Musée Picasso

Lecture Le Musée Zadkine

それぞれの課で該当する文法を最低1～2時間かけて予習してから取り組んでください。

【成績評価の方法】

◎科目試験

教科書の該当部分を中心に、本文、会話文の日本語訳や文法練習問題などから出題します（記述式）。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし ※2006年度までに「フランス語Ⅰ」の単位を修得している場合は履修できない。

○備考

履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書

藤田尊潮・小幡一雄著『パリのミュゼでフランス語!』補助教材CD付(白水社 2002年)

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年)

『フランス語初級「パリのミュゼでフランス語!」教科書解説書』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2007年)

【その他】

○推薦辞書

『デイコ仏和辞典』(白水社 2003年)

『クラウン仏和辞典』(三省堂 2015年)

『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(欧文社 2010年)

○推薦参考書

『CDエクスプレス フランス語』筑紫文耀著(白水社)

『フランス語のABC』数江譲治著(白水社)

『仏検対策5級問題集』(白水社)

科目名	フランス語中級						
授業コード	2170	授業科目名	フランス語中級			担当者	藤田尊潮教授、小幡一雄講師、今村純子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可 科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

「フランス語初級」の学習を終えた学生を対象に、初級文法の完成とフランス語で書かれたテキストの読解力を養うことを目的とした授業です。教科書は『星の王子さまの教科書』を使用します。『星の王子さま』が優れた文学作品であることは、誰もが承知のことと思いますが、その美しいフランス語のテキストは、同時にフランス語文法を学ぶ上で格好の教材なのです。基礎的なフランス語の文法事項は、ほとんど網羅されていると言ってよいでしょう。教科書は、『星の王子さま』のテキストの抜粋と、初級文法の教科書では学びきれなかった難度の高い文法事項の解説、そして練習問題から構成されています。教科書には、CDが付属されており、練習問題の中にも聞き取り問題がありますから、何度も繰り返し聞くことによって、フランス語の発音に対する感性も磨かれていくことでしょう。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

Leçon 1～Leçon 5 までの練習問題を解き、レポート用紙にまとめて提出する。

○通信授業課題 2

Leçon 6～Leçon 10 までの練習問題を解き、レポート用紙にまとめて提出する。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

Leçon 1 から Leçon 10 までを学習します。

Leçon 1 bon と bien の比較・最上級 [avoir + 無冠詞名詞] の熟語表現/vouloir と pouvoir の直説法現在の活用/直説法複合過去

Leçon 2 直説法半過去 半過去と複合過去 dormir, partir, servir 型不規則動詞の活用/さまざまな否定表現

Leçon 3 直説法大過去/直説法単純過去

Leçon 4 指示代名詞/直説法単純未来

Leçon 5 条件法現在/中性代名詞

Leçon 6 接続法現在/所有代名詞 前置詞とともに用いられる疑問代名詞

Leçon 7 分詞節/接続法過去/接続法半過去

Leçon 8 接続法大過去/接続法を要求する表現のまとめ/命令法現在/複合時制における過去分詞

Leçon 9 直説法前未来/直接話法と間接話法

Leçon 10 直説法前過去/疑問代名詞および前置詞とともに用いられる関係代名詞

それぞれの課で該当する文法を最低1～2時間かけて予習してから取り組んでください。

【成績評価の方法】

◎科目試験

教科書全体の中から、本文テキストの日本語訳、文法問題およびその応用問題を出題します（聞き取り問題は含みません）。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし（フランス語初級文法の知識を持っていること）

○備 考

履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書

藤田尊潮編註著『星の王子さまの教科書 中級フランス語文法読本』（武蔵野美術大学出版局 2007年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

○推薦辞書

『ロワイヤル仏和中辞典 第2版』（旺文社）

『新スタンダード仏和辞典』（大修館）

『プチ・ロワイヤル和仏辞典』（旺文社）

○推薦参考書

『仏検対策4級問題集』（白水社）

『仏検対策3級問題集』（白水社）

科目名	フランス語上級						
授業コード	2180	授業科目名	フランス語上級			担当者	藤田尊潮教授、小幡一雄講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可 科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

原文で美術関係の文献を読むことによって、フランス語の読解力を養うとともに 20 世紀美術界の大きな流れを理解する手がかりにしたいと思います。教科書は『マン・レイ「インタビュー」』を使用します。

この本は、Man Ray, Ce que je suis et autres textes (Paris, Hoebeke, 1998) から「L'interview de camera」という章を抜粋し編集したものです。この教科書の中でマン・レイはあるときは皮肉っぽく、またあるときはユーモアに富んでいて、まさに彼の作品を彷彿とさせるようなさまざまな表情を見せています。彼のことばに接することによって、私たちは 20 世紀美術という大きな流れの一端に触れることができるでしょう。文章はおおむね平易ですし、巻末には詳細な注が付けられていますから、フランス語の初級文法を習得した学生なら辞書を使って読み進めることができると思います。ともかく、一年間で一冊を読み上げてみましょう。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

教科書の p.5 ～ p.21 の範囲でレポート課題。

○通信授業課題 2

教科書の p.22 ～ p.39 の範囲でレポート課題。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書本文全体 p.5 ～ p.39 までを使用します。

【成績評価の方法】

◎科目試験

教科書の該当部分を中心に出题します（記述式）。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

「フランス語初級」（2006 年度以前では「フランス語 I」）の単位を修得していること。または、相当する学習歴を有すること。

※2006 年度までに「フランス語 II」の単位を修得している場合は履修できない。

○備考

フランス語の初歩を学び終えた学生を対象にした上級クラスですから、辞書を使ってある程度フランス語の文章を読むことができる必要があります。またフランス語に多少とも興味があり、原文で美術関係の文献に接してみたいというやる気を持った学生の履修を希望します。

【教材等】

○教科書

藤田尊潮編注『マン・レイ「インタビュー」』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

○推薦辞書

『ロワイヤル仏和中辞典』第2版（旺文社）

『新スタンダード仏和辞典』（大修館）

『プチ・ロワイヤル和仏辞典』（旺文社）

○推薦参考書

『パリのミュゼでフランス語！』（白水社 2002年）

『仏検対策準2級問題集』（白水社）

科目名	健康と身体運動文化 I～IV(フィットネス)			第1期:7月23日～7月25日 第2期:7月30日～8月1日 冬 期:12月15日～12月17日		
授業コード	下記参照	授業科目名	健康と身体運動文化 I～IV	担当者	北徹朗教授	
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定
科目区分	造形文化科目/文化総合科目					
授業形態	面接授業					

【授業の概要と目標】

現代社会においては、年齢やライフスタイル等を考慮した多層化・多様化した健康への取り組みが大変重要となってきている。この授業では、自己の健康を自主管理できる基礎知識を身につけ、各々のライフステージで健康で豊かな社会生活を実現するための幅広い知識と実践力を学習する。具体的には、身体組成・骨密度・体力測定などのデータを測定し、自分自身の身体の現状を理解し、実感と想像のズレについて追及する。それを踏まえた上で、身体運動の重要性とエクササイズ実施の方法について理解する。

【課題の概要】

○面接授業課題

自身の身体の内部(身体組成)と外部(体力)に対する機能の現状を理解するために、基礎代謝量、筋肉量、体脂肪率、骨密度などの計測と、各種体力テストを実施する。各データの点検・評価をもとに各自のコンディショニングと照合し、運動処方について考察する。

【授業計画】

○面接授業

この授業は実技授業を3日間受講する。実技の実践のほか、実技に関する理論学習が必須であるので筆記用具の持参と学習後のショートレポートの提出を求める。

大学スポーツ施設において3日間の実技が行われる。

第1日 午前: 1. 前提講義 / 2. なぜ運動は大切か

第1日 午後: 3. ウォーミングアップとクーリングダウンの意義 / 4. 身体組成の測定、体力測定①

第2日 午前: 1. 体力測定② / 2. 体力測定の評価

第2日 午後: 3. 健康と運動、「体力」とは何か / 4. ペアトレーニング、バランストレーニング、器具を使わないトレーニング

第3日 午前: 1. 骨格筋の構造と機能、トレーニングの原則 / 2. トレーニングマシンの使い方とトレーニングの記録

第3日 午後: 3. ストレッチボールを利用したエクササイズ / 4. まとめのレポート

※ペアや3～4人のグループでの活動が多く含まれます。

※音楽や太鼓など、大きな音を出して学修する場面があります。

【成績評価の方法】

年齢差を勘案した評価と現状の自己の認識度の評価を点検するためにいくつかの項目にわたってチェックを行う。その内容は、記述式と身体表現によって行う。面接授業は出席が成績評価の重要な要素である。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

1年間に履修できるのはI～IVのうち1科目のみ。

I～IVとも同じ内容の授業を行う。

複数の開講期間のうち、種目に限らずいずれかの期間で受講し合格した場合、同年度の他期間の受講は不可。種目の選択はスクーリング受講申込時に行う(多数の場合抽選による)。

【教材等】

補助教材として授業展開に応じて資料を配付する。

【その他】

資料: 武蔵野美術大学身体運動文化研究室編

青沼裕之・森敏生・北徹朗著『市民のための健康・スポーツ論』(武蔵野美術大学出版局 2022年)

この授業は実技授業を3日間12コマ(30時間)受講する。実技の実践の他、実技に関する理論学習が必須であるので筆記用具の義務づけと学習後のショートレポートの提出を求める。

授業コード	:	0260	健康と身体運動文化 I
	:	0270	健康と身体運動文化 II
	:	0280	健康と身体運動文化 III
	:	0290	健康と身体運動文化 IV

科目名	健康と身体運動文化 I～IV(テニス)		第1期:7月23日～7月25日				
授業コード	下記参照	授業科目名	健康と身体運動文化 I～IV			担当者	青沼裕之教授
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

硬式のテニスのゲームは、サーブから始まり、グランド・ストローク(フォア、バック)、ボレー(フォア、バック)、ロブ、スマッシュ等の技術を駆使しておこなうものであり、プレイヤーは、打点やタイミングの習熟とともに、コースや高さの打ち分け、ゲームの駆け引きについて理解する必要がある。フォアハンドのグランド・ストローク1つをとっても、フラット、スピン、スライスの打ち分けがあり、これらをマスターするには、習熟への執着心とかなりの時間が必要である。

そこで、この授業では、ダブルスとシングルのゲームにおいて、それぞれの技術(打ち方)がどういう場面で必要となるかを理解するとともに、練習の仕方を体験し理解することを目標とする。

また、この授業は、グループ学習によって、学生自身が授業へ自主的、計画的に参加することが前提となっている。教師からの一方的な伝達と指示によって技術習得がなされていくような授業ではなく、学生自らが技術を学び取っていく授業にしたい。技術学習の系統、練習方法、自己の技能やその向上過程についての認識を大事にし、そうした認識を自己の内にとどめず、交流し、互いに確認してほしい。

【課題の概要】

○面接授業課題

- ・テニスのゲームで必要となる技術(打ち方)とルールを理解
- ・グループで学習する練習方法の理解

【授業計画】

○面接授業

大学のテニスコートにおいて3日間の実技がおこなわれる。

第1日 午前:学習計画の確認、リーダー・係決定、グリップやコート等の説明、ボールを面でもとらえる練習

第1日 午後:ボールをスイートスポットでとらえる、いろんな高さのボールを打つ

第2日 午前:グランド・ストロークの打点とコースの打ち分け

第2日 午後:ボレー(フォアハンドとバックハンド)とサーブ

第3日 午前:ゲームに必要なルールと戦術の確認

第3日 午後:グループ対抗戦(ダブルス)とまとめ

【成績評価の方法】

テニスの技術の練習方法とゲームに関するルール、ポジション、戦術の理解度、及び授業出席状況をもとに評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

1年間に履修できるのはI～IVのうち1科目のみ。

I～IVとも同じ内容の授業を行う。

複数の開講期間のうち、種目に限らずいずれかの期間で受講し合格した場合、同年度の他期間の受講は不可。種目の選択はスクーリング受講申込時に行う(多数の場合抽選による)。

【教材等】

資料は授業時に配布する。

【その他】

ラケット・ボールは大学で用意する。テニスシューズを用意してくること。

練習・ゲームでは、楽しき中にも知恵と工夫を盛り込んでほしい。

技術学習と関連させて、室内でテニスに関する講義を行う。

参考書、解説書は図書館に所蔵されているので、各人それを利用する。バリエーションある練習方法、技術・戦術等をそこから学ぶ。

授業コード	:	0260	健康と身体運動文化 I
	:	0270	健康と身体運動文化 II
	:	0280	健康と身体運動文化 III
	:	0290	健康と身体運動文化 IV

科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ(護身武術)		第2期:7月30日～8月1日				
授業コード	下記参照	授業科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ			担当者	服部由季夫講師
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

武とは戈を止めるという意味で、武術とは身を護る術のことである。また、英語では martial arts と呼ばれ、そこでは美的センスも問われることもある。例えば空手の型や太極拳の表演などは美しさを競う場合が多い。この授業では、参加される学生の性別や年齢、体力を鑑みながら、空手、合気道、太極拳、気功などを行い、護身の基礎を養い、武術の楽しさや難しさを味わうことを目標としている。合気道のようにお互いに技を練る武術もあるし、空手のようにミットを蹴ったりしながら鍛える武術もある。太極拳や気功などは、現在健康への指向が強い。それらを適宜行っていく。従って老若男女の参加を歓迎する。なお、この授業における空手は、極真空手を中心とするフルコンタクト空手であるが、授業において相手に突き、蹴りを当てることはない。なお、護身とは即ち身を守ることであり、単に技だけのことではない。病気等から身を守ることも護身である。そのようなことも適宜説明していく予定である。

【課題の概要】

- 面接授業課題
- ・武術における身体運用の理解
- ・身を護ることと健康への理解

【授業計画】

[面接授業]

大学の卓球場にて3日間の実技が行われる。

第1日 午前:オリエンテーション、学習計画の確認、様々な武術の紹介、簡単な体ほぐし

第1日 午後:受身と歩法、簡単な技

第2日 午前:合気道の技

第2日 午後:空手の技

第3日 午前:太極拳や気功

第3日 午後:武術と護身、総括

【成績評価の方法】

技だけでなく、授業への取り組み方や、出席状況を勘案して評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

1年間に履修できるのはⅠ～Ⅳのうち1科目のみ。

Ⅰ～Ⅳとも同じ内容の授業を行う。

複数の開講期間のうち、種目に限らずいずれかの期間で受講し合格した場合、同年度の他期間の受講は不可。種目の選択はスクーリング受講申込時に行う(多数の場合抽選による)。

【教材等】

授業時に適宜配布する。

【その他】

運動出来る服装、即ちジャージ等を持参すること。長ズボンが望ましい。

また軍手を持参すること。

ペアワークを行う。特に合気道では相手の手を掴んだり、相手に掴まれたりといった技の練習を行う。

授業コード	:	0260	健康と身体運動文化Ⅰ
	:	0270	健康と身体運動文化Ⅱ
	:	0280	健康と身体運動文化Ⅲ
	:	0290	健康と身体運動文化Ⅳ

科目名	健康と身体運動文化 I～IV(バドミントン)						第1期:7月23日～7月25日	
授業コード	下記参照	授業科目名	健康と身体運動文化 I～IV			担当者	森敏生教授	
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定		
科目区分	造形文化科目/文化総合科目							
授業形態	面接授業							

【授業の概要と目標】

バドミントンはいろんな年齢やレベルで楽しむことができます。その共通の面白さは、軽いラケットと独特のフライト性能をもつシャトルを介してラリーのなかで相手と多彩な「駆け引き」(戦術)を展開することでしょう。ラケットワーク(ストローク)を磨き、様々なシャトルワーク(ハイクリア、スマッシュ、ドロップなど)が使えるようになることで、「駆け引き」を伴うラリーの面白さが深まっていきます。この授業ではダブルスのゲームを中心にバドミントンの面白さを探求していきます。

【課題の概要】

○面接授業課題
下記授業計画による。

【授業計画】

○面接授業

この授業は、大学スポーツ施設において実技を3日間12コマ(30時間)受講する。

1. 受講登録とオリエンテーション/ねらい・計画と学習の進め方、バドミントンのゲームと基礎技術、アンケート
2. ストロークのテクニック(1) ドロップ・スマッシュ・ハイクリア
3. ストロークのテクニック(2) ヘアピン、アンダーハンド
4. ストロークのテクニック(3) バックハンド
5. 試合の戦術(1) サーブとサーブリターン
6. 試合の戦術(2) 前後のゆさぶり・スマッシュにつながる配球
7. ダブルスのフォーメーション(1) サイド・バイ・サイドのポジショニングとコンビネーション
8. ダブルスのフォーメーション(2) トップ・アンド・バックのポジショニングとコンビネーション
9. 練習ゲーム(審判、記録、ゲームの運営の方法)
10. グループ対抗戦 試合の作戦と運営法、ミーティング
11. まとめ(学習を総合的に講評、まとめのレポート)

【成績評価の方法】

定められた受講時間数の出席を要する。「駆け引き」を伴うラリーを味わえる「技能と認識」及びグループワークの取り組みを重視する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

1年間に履修できるのはI～IVのうち1科目のみ。

I～IVとも同じ内容の授業を行う。

複数の開講期間のうち、種目に限らずいずれかの期間で受講し合格した場合、同年度の他期間の受講は不可。種目の選択はスクーリング受講申込時に行う(多数の場合抽選による)。

【教材等】

資料は授業時に配布する。

【その他】

- ①体育館シューズを用意する。
- ②適宜休息を取りながら進める。ミーティングやミニ講義など知的な学習時間を設ける。
- ③夏期は発汗も多い。水分を小まめにして熱中症の予防に努める。タオル・予備のTシャツなどを準備する。

授業コード	:	0260	健康と身体運動文化 I
	:	0270	健康と身体運動文化 II
	:	0280	健康と身体運動文化 III
	:	0290	健康と身体運動文化 IV

科目名	健康と身体運動文化 I～IV(バドミントン)						冬 期:12月15日～12月17日	
授業コード	下記参照	授業科目名	健康と身体運動文化 I～IV			担当者	浅井泰詞講師	
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定		
科目区分	造形文化科目/文化総合科目							
授業形態	面接授業							

【授業の概要と目標】

本授業ではバドミントンの初心者を対象とすることを想定し、バドミントンの基礎技術ならびにルール（シングルス・ダブルス）や用具の取り扱いを理解し、実戦的なゲームからバドミントンの楽しさや、スポーツを行う習慣などを見つめる機会とすることを授業の目標とする。

授業は男女混合・経験者初心者混合のペア、またはグループに分けて行い、コート用具等の準備・整理は学生が主体で行う。第1日目と第2日目は主に基礎技術の習得とミニゲームを行い、第2日目午後と第3日目はリーグ戦を行う。試合ごとにペアやグループを代えて、より多くの学生と交流する機会を持てるようにする。

【課題の概要】

○面接授業課題

- ・バドミントンの基礎技術、ゲームのルールや用具設置の理解と習得
- ・ペア、またはグループによる活動

【授業計画】

○面接授業

第1日 午前:オリエンテーション/授業の進め方、グループ作り、コートと用具の説明・準備、ラケット操作、ラリー

第1日 午後:基礎技術の習得(クリア・ドロップ・ヘアピン)/ミニゲーム

第2日 午前:基礎技術の習得(スマッシュ・サーブ)/ミニゲーム・ルールの理解

第2日 午後:ゲーム

第3日 午前:リーグ戦

第3日 午後:リーグ戦、総括

【成績評価の方法】

授業の出席率、集団的学習・運営能力を総合的に評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備 考

1年間に履修できるのはI～IVのうち1科目のみ。

I～IVとも同じ内容の授業を行う。

複数の開講期間のうち、種目に限らずいずれかの期間で受講し合格した場合、同年度の他期間の受講は不可。種目の選択はスクーリング受講申込時に行う(多数の場合抽選による)。

【教材等】

資料は授業時に配布する。

【その他】

運動に適した服装(ジャージ等のスポーツウエア)を着用し、室内用シューズを準備すること。ラケット、シャトル等の用具は大学で準備するが、個人のラケットを使用したい場合は持参しても構いません。

また水分補給ができるように飲料水を持参しておくことが望ましい。

授業コード	:	0260	健康と身体運動文化 I
	:	0270	健康と身体運動文化 II
	:	0280	健康と身体運動文化 III
	:	0290	健康と身体運動文化 IV

科目名	健康と身体運動文化 I～IV(ダンス)		第2期:7月30日～8月1日				
授業コード	下記参照	授業科目名	健康と身体運動文化 I～IV			担当者	荻山幸子講師
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

スペインの南部、アンダルシア地方を発祥とする「フラメンコ」について学ぶクラスです。まず手始めに、セビリア民謡の「セビジャーナス」の踊りをマスターします。これはスペイン人の老若男女、誰もが踊れる最もポピュラーな踊りで、フラメンコの練習生はまずこの踊りから始めます。毎年4月の末に「フェリア」と言われる春祭りがあります。一週間、「カセタ」という沢山の大きなテントの中で皆セビジャーナスを踊り明かします。いつかスペインを訪れた時、その踊りの輪の中へ自然に溶け込んで一緒に踊れる様になりましょう。また、ヨーロッパに於けるスペインの歴史や、スペイン芸術の中に於ける「フラメンコ」や「ロマ」についての資料を配布します。好奇心とチャレンジ精神と、不思議だなと思う心を持って授業に参加して下さい。今までとは一味違ったスペイン感、フラメンコ感を持てるとと思います。

【課題の概要】

○面接授業課題
テキストに沿って、踊る上で大事な知識をまず説明します。(基本的なリズム等)

【授業計画】

○面接授業
大学の剣道場に於いて3日間行います。
第1日 午前:学習計画の確認、グループ分け。基本の説明。(できればビデオ等も活用する)担当教師の手本の実演。
第1日 午後:「一番」「二番」の振り付け
第2日 午前:前日のおさらい。「三番」の振り付け。
第2日 午後:「四番」振り付け。講義。
第3日 午前:セビジャーナスの総仕上げ。
第3日 午後:「フィエスタ」を行う。その後、スペイン談義やフラメンコ論、ダンス論など大いに花を咲かせましょう。

【成績評価の方法】

出席を重視し、授業参加度も合わせて総合評価する。
まず絶対に出席する事。踊れる様になる事。「休まない、覚える、忘れない、楽しむ。」の精神でやりぬいて下さい。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～
○履修条件
なし
○備考
1年間に履修できるのはI～IVのうち1科目のみ。
I～IVとも同じ内容の授業を行う。
複数の開講期間のうち、種目に限らずいずれかの期間で受講し合格した場合、同年度の他期間の受講は不可。種目の選択はスクーリング受講申込時に行う(多数の場合抽選による)。

【教材等】

なし

【その他】

とにかく汗をかきますから、上着は汗をよくとるTシャツ(替えがある方がよい)下はスパッツでもトレパンでも良いですが、女性は長めのフレアスカートがあれば尚良い。
必ずくつ下をはいて下さい。男性は革ぐつ、女性は中ヒールパンプスを用意して下さい。フラメンコ用に、裏の砂や泥をはらっておいてください(サンダル、ミュール、スニーカーは不可)。少し長めのタオル。
資料はプリントして配布します。

授業コード	:	0260	健康と身体運動文化 I
	:	0270	健康と身体運動文化 II
	:	0280	健康と身体運動文化 III
	:	0290	健康と身体運動文化 IV

科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ(ゴルフ)		第2期:7月30日～8月1日				
授業コード	下記参照	授業科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ			担当者	鈴木タケル講師
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

ゴルフは500年以上もの歴史を持つスポーツである。近年では、2016年リオデジャネイロオリンピックから約100年ぶりに正式競技への復帰を果たし、人気の高いスポーツとして国内でもゴルフ人口は多い。本授業では、ゴルフとはどのようなスポーツであるかを理解し、プレーをする上で最低限必要なエチケット・マナー及びルールを学習するだけに留まらず、巧くプレーを行うための道具の知識やスイング動作の基本練習を行う。ゴルフは、イギリス生まれの紳士のスポーツとして知られているため、特にエチケット・マナーやルールについての理解も重視する。授業前半は、クラブの握り方やスイング動作の基本を学習し、授業後半では、グラウンドに仮設コースを設定し、スコアを記録しながらラウンドプレーの方法を学ぶ。

【課題の概要】

- 面接授業課題
- ・ゴルフの歴史と基礎知識
- ・ゴルフ用語と用具の知識
- ・ゴルフスイングの基本
- ・ラウンドの基本

【授業計画】

- 面接授業
- 大学のグラウンドで実技を行う。
- 第1日 午前 学習計画の説明 基礎知識の説明
- 第1日 午後 グリップ・アドレス 小さいスイング
- 第2日 午前 前日の復習練習 ハーフスイング
- 第2日 午後 フルスイング 各クラブの練習
- 第3日 午前 パッティング アプローチ
- 第3日 午後 ラウンドの方法

【成績評価の方法】

授業出席状況 60%、技術マナーに対する理解度 40%

【履修条件及び履修年次】

- 履修年次
- 1年次～
- 履修条件
- なし
- 備考
- 1年間に履修できるのはⅠ～Ⅳのうち1科目のみ。
- Ⅰ～Ⅳとも同じ内容の授業を行う。
- 複数の開講期間のうち、種目に限らずいずれかの期間で受講し合格した場合、同年度の他期間の受講は不可。種目の選択はスクーリング受講申込時に行う(多数の場合抽選による)。

【教材等】

資料は授業時に配布する。

【その他】

運動着、運動靴(ゴルフシューズでなくてもよい)、ゴルフ用手袋の用意をすること。
ゴルフクラブ、ボール等については大学で用意する。
屋外での授業が中心となりますので、各自、暑さ対策をお願い致します。帽子や着替えの用意が必要です。
暑さ対策のためのファンウェア貸し出しや氷などは、大学で用意しています。

授業コード	:	0260	健康と身体運動文化Ⅰ
	:	0270	健康と身体運動文化Ⅱ
	:	0280	健康と身体運動文化Ⅲ
	:	0290	健康と身体運動文化Ⅳ

科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ(エチュード)		冬 期:12月15日～12月17日				
授業コード	下記参照	授業科目名	健康と身体運動文化Ⅰ～Ⅳ			担当者	荻山幸子講師
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

実技では「からだ造り」という点から「柔軟な筋肉」「しなやかなボディライン」「力強い動き」を持つ事を目指す。機具を使わず自分の骨格や筋肉で支える事が出来る様にして「コントロールする事」をからだに覚えさせる。「存在する肉体」という観点から、表現する事とは存在を証明する事とはどういうことかを、演劇、美術、音楽、文学等あらゆる芸術的手法と日常の所作等の手法を用いて「思考する身体」あるいは「心が宿る器」つまり「人間」そのものを追及する体験を実験的、前衛的な方法でやってみる。発想の転換が必要。自己の内面を意識する為の行為を体験してその結果「内なる他者」を見出し、対話し、真に個として確立された存在を造り上げて行く。

【課題の概要】

○面接授業課題
テキストに沿って、課題を進めていきます。

【授業計画】

○面接授業

【成績評価の方法】

出席、参加度を重視します。
まず絶対に出席する事。「楽しむ」の精神でやりぬいて下さい。授業への熱心な取り組みを望みます。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～
○履修条件
なし
○備考
1年間に履修できるのはⅠ～Ⅳのうち1科目のみ。
Ⅰ～Ⅳとも同じ内容の授業を行う。
複数の開講期間のうち、種目に限らずいずれかの期間で受講し合格した場合、同年度の他期間の受講は不可。種目の選択はスクーリング受講申込時に行う(多数の場合抽選による)。

【教材等】

授業時に演劇台本(「鹿鳴館」「天守物語」「マクベス」等)を配布する。授業終了後に返却のこと。

【その他】

“ダンス”“パフォーマンス”“演劇”という先入観を持たず、好奇心を持って臨んでください。
授業以外ではなるべく様々なジャンルの芸術に触れて、ボーダーレスな感性を培ってください。
授業の時必ずくつ下をはく事。必ず着替える事(特にジーンズ等体を締めつける服装は不可)。
長めのタオルを持参すること。アクセサリーははずすこと。体育館シューズ、バレエシューズ等を用意できない場合は、足裏にすべり止めのついた厚手のくつ下を使用すること。

授業コード	:	0260	健康と身体運動文化Ⅰ
	:	0270	健康と身体運動文化Ⅱ
	:	0280	健康と身体運動文化Ⅲ
	:	0290	健康と身体運動文化Ⅳ

科目名	健康と身体運動文化 I～IV(卓球)		第1期:7月23日～7月25日				
授業コード	下記参照	授業科目名	健康と身体運動文化 I～IV			担当者	浅井泰詞講師
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

卓球は年齢、性別に関わらず体力に応じて楽しむことができるスポーツです。木製の台の中央のネットをはさみ、ボールをラケットで打ち合い得点を競います。返球のための時間が短く、瞬時にボールのコースを読み、打ち返すなどすばやい判断力と敏捷性が求められるスポーツです。そして、実力と体力に合わせゲームを楽しむことでレクリエーションなスポーツとして生涯を通じて続けることができるスポーツでもあります。授業ではラケットの持ち方から、サービスの仕方、ボールへの回転の付け方など基本技術から地道に学び、ゲームを楽しみ、スポーツのある生活の意義を考えてもらいます。

【課題の概要】

○面接授業課題

- ・卓球の基本テクニックを学び、シングルス・ダブルスゲームを経験する。
- ・シングルス・ダブルスゲームを実力に合わせて楽しみ、スポーツのある生活の意義を考える。

【授業計画】

○面接授業

大学の卓球場にて、3日間の実技を行う。

第1日

- ①チーム編成、用具の説明と具体的な授業の進め方の説明。
- ②ラケットの握り方(ペンホルダーグリップ、シェークハンドグリップ)。
- ③打法の習得 ショート打法(プッシュ、ストップ)、ロング打法(フォアハンド・バックハンド)、カット打法(フォアカット、バックハンド)。
- ④サービスの技法の習得(フォア、バック)
- ⑤ルールの習得(シングルス・ゲーム)
- ⑥サービスからラリーへの入り方の練習
- ⑦クロス・ラリーの練習と練習試合
- ⑧シングルスルールの学習と練習試合と審判実習
- ⑨戦術の研究と練習試合

第2日

- ①ゲームを中心にした授業へ移行
- ②ダブルスのローテーションの練習とルール(ダブルス・ゲーム)の学習
- ③戦術の研究
- ④チームワークの研究
- ⑤シングルスゲームとダブルスゲームによる練習試合
- ⑥チーム対抗試合の企画と運営

第3日

実力に合わせた対抗試合を楽しむ。卓球のテクニックを磨く

【成績評価の方法】

全授業の出席状況を基に、ゲームへの取り組み方、テクニックの上達など総合的に評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

1年間に履修できるのはI～IVのうち1科目のみ。

I～IVとも同じ内容の授業を行う。

複数の開講期間のうち、種目に限らずいずれかの期間で受講し合格した場合、同年度の他期間の受講は不可。種目の選択はスクーリング受講申込時に行う(多数の場合抽選による)。

【教材等】

なし

【その他】

運動に適した服装(ジャージ等のスポーツウェア)を着用し、室内用シューズを準備すること。ラケット、ボール等の用具は大学で準備するが、個人のラケットを使用したい場合は持参しても構いません。また水分補給ができるように飲料水を持参しておくことが望ましい。

授業コード	:	0260	健康と身体運動文化 I
	:	0270	健康と身体運動文化 II
	:	0280	健康と身体運動文化 III
	:	0290	健康と身体運動文化 IV

科目名	健康と身体運動文化 I～IV(武器術と護身)		冬 期:12月15日～12月17日				
授業コード	下記参照	授業科目名	健康と身体運動文化 I～IV			担当者	服部由季夫講師
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

現代社会において、身を護る、即ち護身をある程度出来ることは、より安全に生活するために有益である。護身は狭義では暴漢などから身を護ることを意味するが、広く考えれば病気やストレスから身を護ることも包括され得る。従って、武術としての鍛錬を極めた余り、早死にしようとなれば全く無意味であると考えられる。護身について、こうしたことを考えながら取り組むことは大切である。

そして、身を護ることに、いくら鍛錬を重ねても、刃物などに対して素手で立ち向かうことは無謀である。武器があれば武器を使い、無ければ何らかのモノを利用して対抗すべきである。

この授業では、既存の武器の紹介と、使用方法、そして実践を通じて護身について検討を図っていくものである。また、護身について、様々な場面を想定した話もしていく予定でいる。参加される学生も、日常における不安や危険について考えながら、受講して頂くと有意義な時間になると思料する。

【課題の概要】

○面接授業課題

- ・様々な武器の使用方法への理解
- ・身を護ることと健康への理解
- ・日常に潜む危険の把握

【授業計画】

[面接授業]

大学の卓球場にて 3 日間の実技が行われる。

- 第 1 日 午前:オリエンテーション、学習計画の確認、様々な武器の紹介
簡単な体ほぐし
午後:空手で使われる武器の紹介
- 第 2 日 午前:トンファーの使用法と実践
午後:サイ、ヌンチャク等の武器の使用と実践
- 第 3 日 午前:フィリピン武術のカリの使用と実践
午後:武器術と護身、美大生が考える武器、総括

【成績評価の方法】

技だけでなく、授業への取り組み方や、出席状況を勘案して評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備 考

1 年間に履修できるのは I～IV のうち 1 科目のみ。

I～IV とも同じ内容の授業を行う。

複数の開講期間のうち、種目に限らずいずれかの期間で受講し合格した場合、同年度の他期間の受講は不可。種目の選択はスクーリング受講申込時に行う(多数の場合抽選による)。

【教材等】

授業時に適宜配布する。

【その他】

運動出来る服装、即ちジャージ等を持参すること。

授業コード	:	0260	健康と身体運動文化 I
	:	0270	健康と身体運動文化 II
	:	0280	健康と身体運動文化 III
	:	0290	健康と身体運動文化 IV

科目名	健康と体力研究						
授業コード	0300	授業科目名	健康と体力研究			担当者	北徹朗教授
開講期間	通年	単位数	1単位(T1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業 (Web提出可)						

【授業の概要と目標】

この授業は、通信授業として位置づけられているが、授業の内容からして理論と実践の統一こそが課題であり目標である。この通信課題では、健康で活力ある人生を送るための基礎研究として、自分の身体や体力の現状を把握し、それに応じた生活習慣とは何かを考察することを目的とする。

【課題の概要】

○通信授業課題

交通、通信、宅配、インターネットなど、現代社会は便利なもので溢れている。「便利である」とはどういうことか？を考えた時、それは如何に身体を動かすことなく省力化した日常生活を送るかということとも捉えられる。

人類 10 万年の歴史において、おなかいっぱい食べられるようになり、前述のような便利な社会が到来したのはごく最近のことである。私たちの祖先はアフリカ大陸からシベリアを経て日本列島に辿り着いた。こうした経緯から、日本人を含む東アジアの人々は欧米人に比べて食事によって得たエネルギーをできるだけため込もうとする、いわゆる“儉約遺伝子”が強く作用していると考えられている。日本においてもファストフードや食の欧米化は既に広く普及しており、現代社会に生きる私たちは「エネルギー摂取とエネルギー消費（インとアウト）のバランス」に注意を払う必要がある。食物の栄養素のバランスも勿論大切であるが、エネルギーのインとアウトのバランスを保つことは、身体運動が省力化された便利な現代社会では困難となっている。この通信課題では、健康で活力ある人生を送るための基礎研究として、自分の身体や体力の現状を把握し、それに応じた生活習慣とは何かを考察することを目的とする。

【授業計画】

○通信授業

教科書の該当部分を使用する。

【成績評価の方法】

提出課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書

青沼裕之・森敏生・北徹朗著『市民のための健康・スポーツ論』（武蔵野美術大学出版局 2022年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

身体と運動、身体と健康、健康と環境、スポーツと健康、運動と健康等に関して、専門情報誌やマスメディア、インターネット等を利用して情報収集することが望ましい。

科目名	身体運動文化研究						
授業コード	0310	授業科目名	身体運動文化研究			担当者	青沼裕之教授、森敏生教授
開講期間	通年	単位数	1単位(T1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可）						

【授業の概要と目標】

私たちは様々な理由からスポーツを欲している。「健康やダイエットのため」「仲間との触れあいがほしい」「上達して気持ちよくプレーしたい」等々。しかし、日本の地域社会の現状は、スポーツを愛好する国民の要求を十分に満たしうるにはほど遠い。地域差もあるだろうが、スポーツをする時間、施設、指導者等の客観的な条件が整っていないところが多く、要求があっても活動するまでにいたらないという声をよく聞く。

そこで本講座では、スポーツの環境、国や自治体の政策、国民がスポーツを我がものとするための運動に視点を定めて、問題意識を深めるとともに上述した課題解決の方途を探ってみたい。

【課題の概要】

○通信授業課題

レポート課題の選定にあたっては、以下の点に注意してほしい。

- ・ 課題 A、課題 B のうち、どちらかを選んでレポートを作成すること。
- ・ 課題によっては複数のテーマの中から1つを選択することになっているので、その点注意すること。
- ・ テキストや参考文献については学習指導書に書かれているので、参照すること。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書や参考資料を使用する。

【成績評価の方法】

提出課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書

青沼裕之・森敏生・北徹朗著『市民のための健康・スポーツ論』（武蔵野美術大学出版局 2022年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

なし

科目名	美術の歴史と鑑賞						
授業コード	2290	授業科目名	美術の歴史と鑑賞			担当者	三澤一実教授、金子伸二教授、杉浦幸子教授、林有維講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可 科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

学校の美術教育の現場では言語活動を中心とした鑑賞の授業の重要性が高まっている。また教育基本法や博物館法などの改正のなかで、美術館を含めた広範な場所で鑑賞教育の重要性もまた高まっている。

そこでこの授業では、美術科教員、学芸員または美術の社会的普及を目指す立場の者が、古代から現代までの世界の美術の歴史についての基本的な知識を得て、さらに子どもから大人まで誰にでも開かれた美術鑑賞を担うことを目標とする。その際、特定の時代や地域に限定せず、日本の伝統美術やアジアを含めた世界的な美術の交流について、深い知識と実践につながる構想を持つ。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

日本・東洋・西洋を比較した美術の流れを考える課題。

○通信授業課題 2

鑑賞の意義と構想を論じる課題。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

『美術 表現と鑑賞』のうち「鑑賞編」「資料編」「美術史年表」を中心に学習する。

『求められる美術教育』のうち第 1 章及び第 2 章 第 3 節「鑑賞の題材と教育方法」を使用する。

【成績評価の方法】

◎科目試験

教科書に記載された日本・東洋・西洋の美術の歴史を題材に、作品が作られた時代の物事の味方や考え方、作品を人に説明する際の基本的な流れについて出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

履修年次は問わない。

学芸員課程の設定科目であり、資格取得希望者は 1～3 年次に履修することが望ましい。

【教材等】

○教科書

日本造形教育研究会監修『美術 表現と鑑賞—想いを形に一』（開隆堂出版）

大坪圭輔編『求められる美術教育』（武蔵野美術大学出版局 2020 年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

教科書（『求められる美術教育』）に補遺（鑑賞事例）が追加されたため、学習の際は参考にすること。
補遺については、3月15日付Webキャンパスのお知らせ“「美術の歴史と鑑賞」履修者へ”を参照すること。
Webキャンパスを開けない学生は、事務局へ問い合わせること。

科目名	日本美術史						
授業コード	0320	授業科目名	日本美術史			担当者	玉蟲敏子教授、坂本明子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可 科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

生活の中で根付き、育まれてきた日本の造形の歴史を学びます。まず絵画作品を中心に学習し、そこから更に、彫刻や工芸にも視野を広げてほしいと思います。

造形作品には常にそれぞれ固有の価値があると共に、製作者の存在や受容者の意識、社会的な機能・用途があり、更にそれを生み出した時代的、文化的な背景をめぐる問題があります。複数の視点から作品をじっくりみつめ、日本の造形文化を深く理解して頂きたいと思います。加えて学習の過程で感じた事柄などを生かし、受講者の視点がレポートなどの文中にも積極的に盛り込まれることを期待します。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

12世紀のやまと絵の技法を伝える「源氏物語絵巻」「信貴山縁起絵巻」の2点を比較し、文化的背景などに留意しながら、それぞれの表現上の特色を述べなさい。

○通信授業課題 2

江戸時代の庶民文化の華とも称される浮世絵、その中から任意の一名を選び、作品を挙げて特質を論じなさい。なお肉筆画と版画の役割、技法、時代背景、国際交流などの観点を理解した上で課題を進めること。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書は、第1章「生活の造形」、第2章「宗教の造形」、第3章「作家の造形」の項目順に掲載されています。教科書全体を熟読してまず流れを把握し、該当する作品を丁寧に鑑賞した上でそれぞれの課題に臨むよう心がけてください。

<第1部> 生活の造形

第1章 狩猟民族の造形 第2章 農耕民の造形 第3章 王族の造形 第4章 公家の造形
第5章 武家の造形 第6章 町衆の造形 第7章 民衆の造形

<第2部> 宗教の造形

第1章 原始信仰の造形 第2章 神道の造形 第3章 顕教の造形 第4章 密教の造形
第5章 浄土教の造形 第6章 禪の造形

<第3部> 作家の造形—美術家の系譜—

第1章 画家 第2章 書家 第3章 彫刻家と工芸家 第4章 茶匠と花匠

【成績評価の方法】

◎科目試験

教科書の該当部分を中心に出题します（記述式）。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

履修年次は問わない。

学芸員課程の設定科目であり、資格取得希望者は1～3年次に履修することが望ましい。

【教材等】

○教科書

水尾比呂志著『日本造形史 用と美の意匠』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

まずは教科書や関連図書の図版などを丁寧に鑑賞し、作品の特徴を感じ取りましょう。また各種展覧会にも足を運ぶなど、日頃から作品に触れる機会を積極的にもって下さい。作品に親しみ、日本美術の特質を広い視野からとらえて欲しいと思います。

また通信課題 1、2 は主に第 1 部と第 3 部に関連する内容となりますが、教科書全体を熟読して流れを把握した上でそれぞれの課題に臨むよう心がけてください。更に参考文献なども適宜参照し、課題に関する知識を深めましょう。

科目名	東洋美術史						
授業コード	0330	授業科目名	東洋美術史			担当者	稲葉秀朗講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可 科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

東洋とは、西アジア・中央アジア・南アジア・東南アジア・東アジア地域を総じている。本授業では、西アジアを除くそれら諸地域の美術史を対象とする。課題1では、東洋（日本を除く）で生み出された美術作品を通して、美術史の研究方法を学ぶ。課題2は、課題1の応用である。東洋と日本を結ぶアジア的な視野に立ち、造形活動の交流と展開について理解を深めることを目標としている。

【課題の概要】

○通信授業課題1

- ①～⑥のテーマのうち いずれか一つを選択し、作品3点以上を取り上げて、美術史の流れを具体的に論じなさい。
- ① 仏像の発生及び初期仏像の様式変化について ーグプタ時代までのマトウラー仏とガンダーラ仏を中心にー
- ② アンコール期の寺院建築と浮彫彫刻について ーバンテアイ・スレイ、アンコール・ワット、バイヨンを中心にー
- ③ 北魏時代から唐時代までの仏像の様式変化について ー雲岡石窟と龍門石窟を中心にー
- ④ 統一新羅時代の仏教彫刻について ー仏国寺と石窟庵を中心にー
- ⑤ 五代～北宋時代の水墨山水画について ー李成・范寛・郭熙を中心にー
- ⑥ 元～明時代の青花について ー元・洪武・永楽を中心にー

○通信授業課題2

東洋美術の作品の中から、任意に1点を選択し、美術史の視点に立って作品を考察せよ。さらに、その作品が日本美術に与えた影響について考察せよ。

* 課題については、学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書を使用する。課題2のテーマは、教科書の中から選ぶこと。

【成績評価の方法】

○科目試験

教科書から出題（論述・記述式）

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

履修年次は問わない。

学芸員課程の設定科目であり、資格取得を希望する者は1～3年次に履修することが望ましい。

【教材等】

○教科書

朴亨國監修『東洋美術史』（武蔵野美術大学出版局 2016年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

この授業は、受講者が学習指導書と教科書の序章に書かれている内容を理解していることを前提として成り立っている。したがって、学習方法及び課題の目的と考察方法を正しく、理解していないレポートは、採点の対象にならない。

科目名	西洋美術史 I						
授業コード	0340	授業科目名	西洋美術史 I			担当者	北澤洋子教授、三浦香里講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業(Web提出可 科目試験あり)						

【授業の概要と目標】

西洋美術史は、古今の美術作品に触れ、様々な文化と造形表現、創造のありように対する理解を深めることを目的とする。この科目では、紀元前4千年紀から15世紀までの、古代・中世の美術史を取り扱う。四大文明、地中海文明の成立から古典古代様式という西洋美術の根幹となる規範の確立を経て、キリスト教や他民族の文化の融合によって西洋文明の伝統がいかんして形成されてゆくかを考える。特に、絵画や彫刻に加え建築や工芸の代表作に触れながら、形と意味、物の見方が歴史的にどのように継承されたり、移り変わったりしたのか理解することに努めることになろう。

【課題の概要】

○通信授業課題1

教科書を踏まえて、エジプト、メソポタミア、ギリシャなどさまざまな地域で展開した古代美術の特性について考察する課題である。

○通信授業課題2

教科書を踏まえて、中世美術の本質とその後代における継承のあり方について考察する課題である。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書の第1章ならびに第2章を使用する。

1 「古代」

1. エジプト美術 / 2. メソポタミア美術 / 3. エーゲ美術 / 4. 古代ギリシャ / 5. エトルリアとローマの美術

2 「中世」

1. 初期キリスト教時代 / 2. ビザンティン美術 / 3. 西欧中世初期 / 4. ロマネスク美術 / 5. ゴシック / 6. 早期ルネサンスのイタリア絵画 / 7. 初期ネーデルラント絵画

【成績評価の方法】

○科目試験

教科書の該当部分を中心に出题する（記述式）。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

履修年次は問わない。

学芸員課程の設定科目であり、資格取得希望者は1～3年次に履修することが望ましい。

【教材等】

○教科書

北澤洋子監修『西洋美術史』（武蔵野美術大学出版局 2006年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

なし

科目名	西洋美術史 II						
授業コード	0350	授業科目名	西洋美術史 II			担当者	北澤洋子教授、三浦香里講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業 (Web提出可 科目試験あり)						

【授業の概要と目標】

この授業では、西洋におけるルネサンスから現代に至る美術の歴史を学ぶ。具体的には、15世紀から20世紀までのさまざまな芸術の潮流や運動の特徴について、作家や作品に即しながら理解することを目的とする。とはいえ、芸術を独立した現象として捉えるのではなく、それぞれの芸術様式が独立した時代背景を考慮しつつ、その社会的な役割についても理解を深めたい。また、単に教科書や参考文献で得られた知識を整理・羅列することで満足するのではなく、自分自身の眼で画集の図版や実際の作品をじっくりと鑑賞することによって、それらの知識に肉づけをしていくことを重視する。いわば知性と感性の両面から、西洋美術の流れを多角的に理解することを目指したい。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

教科書や参考書を踏まえて、特定的美術潮流とその時代背景について論述する。

○通信授業課題 2

受講者が実際に鑑賞した美術作品 1 点について記述を行なう。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書の以下の該当部分を使用する。

第 3 章「近世」、第 4 章「近代」、第 5 章「現代」

【成績評価の方法】

◎科目試験

出題範囲は教科書の第 3 ～ 5 章とする（記述式）。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

履修年次は問わない。

学芸員課程の設定科目であり、資格取得希望者は 1 ～ 3 年次に履修することが望ましい。

【教材等】

○教科書

北澤洋子監修『西洋美術史』（武蔵野美術大学出版局 2006 年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024 年）

【その他】

平素から近隣の美術館、展覧会等で多くの作品に接すること。

○参考書

教科書巻末（236 ～ 237 頁）の参考文献一覧を参照のこと。

インターネットで複製図版を参照するには下記のサイトが有用である。
Web Gallery of Art (<http://www.wga.hu/>)

科目名	建築史						
授業コード	0360	授業科目名	建築史			担当者	足立純子講師
開講期間	通年	単位数	4単位(T4)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可 科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

ヨーロッパを中心とした建築と都市の歴史を、古代から中世、さらには近世から初期近代にわたって通観する。建築の様式や変遷を単にたどるだけでなく、それぞれの時代に特有の社会や経済、そして文化を生み出してきた人類の歴史のなかで、建築や都市は、どのような役割を果たし、どのように変化と発展を遂げてきたかを、各時代において考察していく。そうした学習によって、建築における機能、構造、材料、美学などの時代による変化を理解し、それぞれの地域風土の差異によって生まれた建築様式の多彩な変貌と展開の跡をたどることを目標としたい。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

教科書「序章」（建築史の概念）と「第 1 章 古代およびヨーロッパ建築周辺史」を理解し、演習問題を踏まえて 2000 字程度のレポートにまとめて提出する。

○通信授業課題 2

教科書「第 2 章 中世」を理解し、演習問題を踏まえて 2000 字程度のレポートにまとめて提出する。

○通信授業課題 3

教科書「第 3 章 ルネサンス以降のイタリア建築の展開」「第 4 章 イタリア以外のヨーロッパの近世建築」を理解し、演習問題を踏まえて 2000 字程度のレポートにまとめて提出する。

○通信授業課題 4

教科書「第 5 章 新古典主義と 19 世紀の建築」を理解し、演習問題を踏まえて 2000 字程度のレポートにまとめて提出する。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書「序章」から「第 5 章」と、関連する参考文献・資料（学習指導書参照）を使用し、古代から 19 世紀までの建築史を読み進める。

【成績評価の方法】

◎科目試験

教科書に準じて出題した科目試験の成績によって評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

履修年次は問わない。

学芸員課程の設定科目であり、資格取得希望者は 1～3 年次に履修することが望ましい。

【教材等】

○教科書

谷口汎邦監修、吉田綱市著『西洋建築史』（森北出版株式会社 2007 年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024 年）

【その他】

課題、授業計画、参考文献の詳細は、学習指導書を参照のこと。

科目名	デザイン史						
授業コード	0370	授業科目名	デザイン史			担当者	木田拓也教授、敷田弘子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可 科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

産業革命以降の近代社会において、モノのデザインは人とどう関わるようになったのか。いわゆる近代デザインの運動が新しい産業社会に対して様々なアプローチを試みる一方で、消費社会には膨大なモノが氾濫し、人々の欲望を喚起させてきた。単なるデザイナーやその作品の理解にとどまらない幅広いデザイン認識の中で19～20世紀という時代背景を理解しながら、デザインが人々の日常生活をどのように変えていったのかの歴史を学ぶ。

【課題の概要】

○通信授業課題1

モダン・デザインの運動を下記の選択群の中からひとつ取り上げ、モダン・デザインのプロジェクト全体が目指したものと関連の中で論じなさい。
 選択群：「アーツ・アンド・クラフツ」「アール・ヌーヴォー」「未来派」「デ・ステイル」「ドイツ工作連盟」「バウハウス」「アメリカのインダストリアル・デザイン」「ロシア・アヴァンギャルド」「アール・デコ」「ポストモダン」

○通信授業課題2

モダン・デザインと深く関わる「人物」をひとり取り上げ、社会との関わりについて触れながら、その歴史的な位置づけをまとめた上で、自分の視点から評価しなさい。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

主に教科書を使用する。

序論 「デザイン史の現在」

1章 -1 「近代デザインにむかって」

1章 -2 「近代デザインの展開」

2章 「グラフィックデザイン」

3章 「エディトリアルデザイン」

4章 「ファッションデザイン」

5章 「クラフトデザイン」

6章 「プロダクトデザイン」

7章 「建築」

おわりに 「モダニズムの展望」

【成績評価の方法】

◎科目試験

教科書の該当部分を中心に出題する（記述式）。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

履修年次は問わない。

学芸員課程の設定科目であり、資格取得希望者は1～3年次に履修することが望ましい。

【教材等】

○教科書

柏木博編『近代デザイン史』（武蔵野美術大学出版局）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

参考文献は、学習指導書の「参考資料」欄を見ること。

科目名	演劇史						
授業コード	2190	授業科目名	演劇史			担当者	安富順講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可 科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

舞楽・能・狂言・歌舞伎・人形浄瑠璃・落語…。日本では、それぞれ生まれた時代の違う各種の演劇芸能が変容を経ながらも今日なお滅びることなく、生き生きと上演されている。

この授業ではそうした日本の古典演劇・芸能の流れと、それぞれの特色を見ていく。演劇史の基本的な知識を身につけつつ、どうしてこれだけ多くの古典演劇（芸能）が日本に残っているのか、なぜ現代の我々がそれに魅力を感じるのか、といった問題を考えていただきたい。教科書の内容は通史的に展開しているが、単に知識を身につけるだけでなく、そこから自分なりの演劇史に関する考えを作り上げて欲しい。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

教科書の第 1 章から第 5 章までに記されている事柄の中からとくに興味を抱いたもの（歴史的展開、人物、作品、ジャンルの特色など）について、自分の鑑賞経験と関連づけて論じなさい。単なる要約や感想だけでなく、自分なりの考えを出すようにして下さい。

タイトルは各自でつけ、参考にした資料の出典（著者、出版社、発行年月など）を必ず記すこと。鑑賞経験については日時、演者など出来るだけデータを添えること。

○通信授業課題 2

教科書の第 6 章から第 11 章までに記されている事柄の中からとくに興味を抱いたもの（歴史的展開、人物、作品、ジャンルの特色など）について、自分の鑑賞経験と関連づけて論じなさい。単なる要約や感想だけでなく、自分なりの考えを出すようにして下さい。

タイトルは各自でつけ、参考にした資料の出典（著者、出版社、発行年月など）を必ず記すこと。鑑賞経験については日時、演者など出来るだけデータを添えること。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書『日本古典芸能史』を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。

【成績評価の方法】

◎科目試験

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書

今岡謙太郎『日本古典芸能史』（武蔵野美術大学出版局 2008 年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024 年）

【その他】

教材以外の主要参考文献は教科書末尾に一覧表を掲げるので、参照すること。

科目名	民芸論						
授業コード	0380	授業科目名	民芸論			担当者	玉蟲敏子教授、杉山享司講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可 科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

柳宗悦の民芸論が、どのような経緯で生れたかといったことを、先づ初期の柳の諸論文に当て考察し、次いで、柳が純粋美術から工芸へ関心を向けるきっかけになった朝鮮工芸の美を、日本民藝館などの美術館で鑑賞して、柳の工芸美との出会いを追体験していただく。その上で、日本の民衆の工芸品へ関心を向けてもらい、柳の言う民芸論とは何かについて、柳の論文と実際の物を照らし合わせて考察してもらうこととする。そして、これからの民芸の在り方や実生活との関わりについて、各自の理解と関心を深めてもらうことを目標とした。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

「私的民芸論」という論文を提出して下さい。

○通信授業課題 2

居住地域あるいは居住する近隣地域で、あなたが民芸と考える品物の製作現場を訪ねて、その仕事の調査を行い、現在の状況等を報告して下さい。現場に関する写真を必ず添えて下さい。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書以外の参考図書も最低二冊は熟読し、その上で通信課題に取り組むこと。

【成績評価の方法】

◎科目試験

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書

柳宗悦『民藝とは何か』（講談社学術文庫）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

○参考文献

『民芸大鑑（5巻）』（筑摩書房）

『柳宗悦全集（22巻）』（筑摩書房）

『柳宗悦コレクション「ひと」「もの」「こころ」（3巻）』（筑摩書房）

水尾比呂志『評伝柳宗悦』（筑摩書房）

水尾比呂志『日本造形史 一用と美の意匠』（武蔵野美術大学出版局）

中見真理『柳宗悦』（岩波新書）

志賀直邦『民藝の歴史』（ちくま学芸文庫）

杉山享司監修『もっと知りたい 柳宗悦と民藝運動』（東京美術）

科目名	美術論						
授業コード	0390	授業科目名	美術論			担当者	村上博哉教授、三浦香里講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（郵送提出のみ 科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

「美」とは何かという本質的な問いを軸として、古代から現代にいたるまでの美術の流れを巨視的に考察する。美術史学についての基本的理解を獲得することを目標とした。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

1450年から1550年の間に制作された西洋の美術作品の一つを選び、その概要と美術史上の意義についてまとめなさい。

○通信授業課題 2

1870年から1970年の間に制作された西洋の美術作品の一つを選び、その概要と美術史上の意義についてまとめなさい。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書および、各自のテーマに沿った参考文献を適宜、参照のこと。

【成績評価の方法】

◎科目試験

教科書を中心に出题する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書

北澤洋子監修『西洋美術史』（武蔵野美術大学出版局 2006年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

積極的に美術館、博物館、ギャラリー等の展覧会に足を運び、古今東西の美術を体験してほしい。

科目名	現代芸術論						
授業コード	0400	授業科目名	現代芸術論			担当者	村上博哉教授、岡山理香講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可 科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

「現代芸術」という言葉は、多くのことを意味しますので、ここでは、20世紀以降の視覚芸術全般を指すことにします。時代区分として、現代芸術を第二次世界大戦以降のものとするのは、アメリカ美術を中心とした考え方ですので、ここでは、モダン・アートもコンテンポラリー・アートも含まれます。

しかし、全ての20世紀以降に制作されたものを現代芸術と呼ぶことはできるでしょうか。現代芸術の定義とは何でしょうか？ なかなか答えにくい問いですが、たとえば、ある作品を前にして、それを日常の延長として理解することが極めて難しいものほど現代芸術という範疇に属している可能性が高いと言えるでしょう。

さて、そうした現代芸術を同時代的な現象としてその日々の変化をリアルタイムに追うことはきわめて困難です。多くの作品を実際に見るに止まらず、雑誌、新聞、テレビ等のメディアをも調べなければなりません。その後に蓄積された膨大な量の情報は、理論という篩いにかけて、はじめて理解可能となるのです。また、今日の芸術は、過去との連続として語られるものです。アクチュアルな問題を扱うには、今日までの芸術の歴史と理論を知る必要があります。

学生諸君が、21世紀の芸術の制作／享受する者として、現代芸術の理論を作品とともに理解することをこの科目の目標とします。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

20世紀芸術を概観しながら、芸術における「～主義（イズム）」とは何かを考えるため、一つの「主義（イズム）」を中心として、その派生と終焉／継続についてレポートにまとめる課題。

○通信授業課題 2

それまでの特権的に享受されていた芸術が「大衆化」することによってどのような変化を遂げたのかを考えるため、作品の分析研究に基づいてレポートをまとめる課題。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

像と視線—ポップアート以降のイメージについて 真剣な操作—『リアルな芸術』のありか フェミニズムの芸術 アートと映像インスタレーション
日本の20世紀をめぐる視点 身体の裁縫術—ファッションと性 「デザインとは何か」を考えるために

【成績評価の方法】

◎科目試験

出題内容は、学習指導書に記載。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

履修年次は問わない。

「西洋美術史 I・II」、「東洋美術史」とともに履修することが望ましい。

【教材等】

○教科書

田中正之編『現代アート 10 講』（武蔵野美術大学出版局 2017年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024 年）

【その他】

なし

科目名	工芸論						
授業コード	0410	授業科目名	工芸論			担当者	玉蟲敏子教授、長岡絵美子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可 科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

形（かたち）を生み出す行為は、工人の「技術（わざ、つくり）」と「意匠（かざり）」によって成り立っている。これに加えて「用」の観点がその行為を発する源にある。この授業科目では、このような前提をふまえ、日本の工芸史のうえで特筆されるべき事象について、更なる切り口で考察する。東西の造形的文化交流を視野に入れながら日本の工芸の特質を浮き彫りにしようとする意欲を期待したい。

また教科書では扱わない明治以降の工芸史については、いわゆる「人間国宝」という存在を通して学ぶことにより、現代における伝統工芸へのさまざまな問題意識を持って欲しい。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

日本の工芸のうち、海外との交流から影響を受けたと考えられる作品を選び詳述しなさい。

○通信授業課題 2

任意の重要無形文化財について述べなさい。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

学習指導書所収「学習の進め方」（必読）の項目で指摘したように、教科書『日本造形史』では、工芸を扱う箇所が様々な視点から折り畳むように扱われているので、そこを丁寧に読み解くこと。

①各人の参考とする美術全集、文献、図版などの選択を行いつつ、教科書の読解を行う。

第 1 部「生活の造形」

全 7 章で、造形史の基礎全般を学ぶ。

第 2 部「宗教の造形」

第 1 章（原始信仰の造形）、第 3 章（顕教の造形）、第 6 章（禪の造形）

ここでは工芸に関係する 3 つの章を学ぶ。

第 3 部「作家の造形」

第 3 章（彫刻家と工芸家）、第 4 章（茶匠と花匠）

ここでは工芸に関係する 2 つの章を学ぶ。

②通信教育課題での学び方

課題 1 では教科書と参考文献を利用してテーマを絞り、海外との比較を通して日本の造形を学ぶ。

課題 2 では人間国宝を学び、身近にあるわざの伝承を調査し、認識する。

【成績評価の方法】

◎科目試験

科目試験には、教科書の内容、及び課題 1、2 に関連した問題を複数問、記述式で出題する。少なくとも教科書に掲載される工芸の図版（カラー、白黒とも）についての説明はできるように学習しておくこと。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書

水尾比呂志『日本造形史 用と美の意匠』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

身の回りの工芸品から博物館などで見られる工芸品まで、常にその世界に触れることを心掛けよう。

科目名	映像文化論						
授業コード	0440	授業科目名	映像文化論			担当者	林司講師
開講期間	通年	単位数	4単位(T4)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可 科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

今日は映像化社会といわれるが、その「映像」技術の原点は、いまから約 180 年前に発明された写真である。写真術の出現は、人々の知識や経験の共有を豊かにし、社会の近代化を加速するとともに、映画を始めさらなる映像技術の開発を促した。また映像メディアの実用化は、造形表現、視覚認識の方法、そして技術的学問的な面での方法論に、大きな変革をもたらした。本講ではそれらの変遷に関心を払い、写真の歴史を軸として「映像」の関与という観点からの文化論を展開する。

【課題の概要】

4 単位の学習成果をあげるために、4 回の通信課題を提出する。

教科書の消化を前提とした上で、各学生のこれまでの映像体験を照らし合わせ、きわめて身近なテーマを分析、考察する段階から始める。回を重ねるごとに、各人が映像文明についての洞察的姿勢を獲得していくことを望む。なお、web・郵送ともに、レポート文字数の中に参考資料・参考 URL 等の注釈は含まない。

○通信授業課題 1

「写真」とは何かを、自身の体験をもとに述べなさい。図版、写真等 3 枚まで添付可。

○通信授業課題 2

写真の発明と発達が、社会に及ぼした影響を写真の歴史をふまえて考察しなさい。図版、写真等 3 枚まで添付可。

○通信授業課題 3

芸術としての写真について、19 世紀半ば以降の写真の歴史をもとに考えるところを述べなさい。図版、写真等 3 枚まで添付可。

○通信授業課題 4

デジタル技術やネット社会におけるデジタル写真の利点と問題点を述べ、デジタル写真ならではの作品を制作している写真家の例をあげなさい。図版、写真等 1～3 枚まで添付のこと。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

序「写真史」を学ぶことについて—写真と現代生活の関係を捉え直す

1. 写真前史—その知識伝統の系譜
2. 写真術の誕生—発明者達
3. 写真活用の第一歩—旅行・調査・記録
4. 肖像写真と新しい社会—市民社会の息吹を受けて
5. メディアとしての写真の台頭—社会の実相を映す鏡
6. 新しい芸術思潮と写真—両大戦間の前衛芸術の興隆
7. グラフジャーナリズムの時代—雑誌文化と市民社会
8. 芸術行為としての写真の始動—ドキュメンタリー写真の新たな意味
9. 映像化社会におけるアイデンティティ—現代芸術に見る写真の応用
10. 転換期の写真表現と未来への展望—デジタル写真技術の可能性と視覚伝達の文化

【成績評価の方法】

◎科目試験

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書

平木収『映像文化論』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

写真を中心として映像全般を鑑賞する機会を大切にすること。

美術館やギャラリー等の展覧会に足を運んだり、写真集や雑誌、Webなどを活用して、様々な写真に触れて“見る目”を養うこと。

科目名	デザインマネジメント						
授業コード	0450	授業科目名	デザインマネジメント			担当者	荻原剛教授、 渡辺衆講師
開講期間	通年	単位数	4単位(T4)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可）						

【授業の概要と目標】

デザインは単なる造形行為ではなく、人文科学、社会科学、自然科学にまたがる知識を人間性、社会性、芸術性の基に統合して問題を発見し、課題を構築し、総合的に解決する活動である。デザインマネジメントはその目標の実現に向けて、デザインの機能、能力、組織を有効に発揮させるための経営管理である。急激に進展する情報社会の中で、デザインマネジメントに対する要求はより高度化、複合化しており、他分野とのコラボレーションはますます重要になって来ている。デザインマネジメントを学ぶには、デザインを理解していることが前提であると考え、デザインの歴史的考察からはじめ、豊かで持続可能な生活環境の形成に向けて、今後のデザイン/デザインマネジメントはどのように活動して行くべきかを考察する。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

道具は人々の生活にとって欠かす事ができない。使用場面における問題や要求を明示し、それを大胆に解決する新しい道具（機器、装置）のデザインを提案すること。なお教科書の「3.5デザインの評価」を参考に提案を自己評価すること。企画意図、使用シナリオやシーンをスケッチや図面と併せて1600字程度のレポートとしてA4サイズ4～6枚に美的にまとめる。

○通信授業課題 2

「コンビニエンスストアのデザイン提案」

次の1)から5)の項目から1つ選び、現地調査の上、ビジネスとしての将来性、文化性、社会性などの視点からの論評と大胆で具体的なデザインを提案すること。「求められるデザインマネジメントの活動姿勢」から適切と思われる姿勢を反映した提案とする。必ず現地・実態調査をすること。また、その調査を基にして顧客特性（性別、年代、職業、ライフスタイル、ニーズ特性など）を示すこと。調査と提案は、地図、写真、スケッチ、図面、概念図などの視覚的な説明資料を使って説明すること。2000字程度のレポートとしてA4サイズ4～6枚に美的にまとめる。

- 1) コーポレートアイデンティティ：シンボルやロゴマーク・コーポレートカラーなどの企業姿勢を可視化する表現、イメージキャラクタ・包装紙・サイン・店舗イメージカラー・従業員のユニホームなどのデザイン展開
- 2) 宣伝戦略：宣伝ポリシー、宣伝メディア（ちらし・CM・カタログ）、イベント企画など
- 3) 商品戦略：商品品揃え、商品特性、デザイン傾向、新サービスの導入など
- 4) 流通：価格政策、受注や支払い方法、流通方法など
- 5) 売り場、店舗デザイン：展示特性、売り場レイアウト、商品の取り扱いなど

○通信授業課題 3

高度情報化時代を迎え、これからはますます人間疎外の進行が予測される。そこで、デザイナーの視点から、ICTを活用したサービスビジネスの提案をすること。とくにバーチャルとリアルの両視点の特徴を活かした提案を期待する。

提案にあたっては社会課題の理解やターゲットユーザの気持ちの把握など、「情報の収集と理解」に意識的に取り組んでほしい。どうしたらアイデアの発想に必要な情報が手に入り、技術的にも妥当な提案になるのか。身近にいる専門家やうまく使っている人から意見を吸収することも有効かもしれないし、ターゲットユーザに近い人を見つけてインタビューすることも良いかもしれない。発想したアイデアを他者に披露しながらより良くしていくことも一種の情報収集と言えるでしょう。情報収集を計画的に試行錯誤すること自体をマネジメントと捉え、学生らしく夢のある楽しい提案を期待している。

○通信授業課題 4

あなたは、ある大手老舗酒造メーカーの社員であり、これから発売が予定されている、ある新しい日本酒の販売企画の総責任者でもある。この新製品は、これまであまり日本酒に親しみのなかった若い女性をターゲットとしている。教科書「5.1.5 情動的価値を付加してゆくデザイン」を参考にしながら、あなたであれば、商品ネーミングや容器デザイン、広告、宣伝、流通ディスプレイ、営業の販促ツール作成など、どのようにしてこの新製品を計画し、展開するでしょうか。様々な人々が関係し、多種多様なツールが生み出される営業施策であることを想定しながら、一貫したメッセージを生み出すことをマネジメントの視点で考案してほしい。

A4サイズ用紙4～6枚で（視覚的説明資料含む）具体的に論ずること。ただし、日本酒の味、容量などは、ターゲットを想定して、自由に考えてよいものとする。言葉だけでは説明しにくいと思われるものに関しては、ラフデザインなど、視覚的な説明資料を添付すること。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

（教科書から）

1. 人間とデザイン。
2. 近代デザインの展開、企業とデザインの関わり。
3. 企業経営とデザインマネジメント。
4. 企業におけるデザイン実務とそのデザインマネジメント。

5. 情報化社会とデザインマネジメント。

【成績評価の方法】

提出課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
なし

○備 考
履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書
坂下清、鶴田剛司、竹末俊昭、佐藤典司『デザインマネジメント』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

○学習指導書
『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

なし

科目名	アートマネジメント						
授業コード	0460	授業科目名	アートマネジメント			担当者	新見隆教授、 河原啓子講師
開講期間	通年	単位数	4単位(T4)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可）						

【授業の概要と目標】

ここで学習する「アートマネジメント」のアートとは「美術」を基本としたマネジメント講座である。そのアートの範疇は、絵画・彫刻・版画・写真・映像・インスタレーション・デザイン等を含む視覚芸術とする。

アートは、社会の様々な人々のサポートによって世の中に発信され、受信者としての鑑賞者や収集家がいる、はじめて芸術として成立するものである。人々がアートに接することで、アートは市民社会の中に機能する。その意味においてアートは創り手と受け手の協働作業でもある。

アートマネジメントとは、アートと社会の橋渡しとして、展覧会やアートプロジェクト、アートイベントを企画制作することを最終目標とするが、アートの現場、例えば美術館・画廊等に接することが重要となる。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

「アートマネジメントとは何か」についてレポートを提出する。

○通信授業課題 2

「美術館のマネジメント」についてレポートを提出する。

○通信授業課題 3

「地域社会におけるアートマネジメント」についてレポートを提出する。

○通信授業課題 4

「アートプロジェクトのプランニング（企画）」をレポートにして提出する。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

事前に予習しておく内容・時間

第一課題 教科書を参照しレポート作成に反映させてください。2時間

第二課題 対象の美術館のホームページを参照してください。2時間

第三課題 対象地域の芸術文化活動を調査し、レポートに反映させてください。2時間

第四課題 各地の展覧会、アートイベント、ワークショップを参照して、オリジナルな企画書を作成し、実施可能なところまでブラッシュアップしてください。5時間

【成績評価の方法】

レポート提出により評価する。成績評価基準は、独自性の高い私見や視点を高く評価します。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書

新見隆ほか『アートマネジメントを学ぶ』（武蔵野美術大学出版局 2018年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024 年）

【その他】

自分の住む地域の博物館・美術館・画廊・寺院の宝物殿等を訪れ、鑑賞体験を積極的に行う。地域の芸術文化活動にアートボランティアとして参加し、アートの現場を体験することも重要である。

科目名	情報社会倫理論						
授業コード	0470	授業科目名	情報社会倫理論			担当者	上田卓司講師
開講期間	通年	単位数	1単位(M1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	メディア授業 [リアルタイム]						

【授業の概要と目標】

情報化に伴う社会問題と可能性を概観し、著作権等の知的財産権、プライバシー保護、セキュリティ管理等を含む今日に不可欠な倫理や社会的ルールのあり方と動向について講義する。特に、美術・デザインとの関連を踏まえ、今日の情報社会のあり方と倫理を追求する。

【課題の概要】

○メディア授業課題

授業内容を踏まえ、情報に関する倫理観の問題と今後のあり方、情報社会と個人との関係について論述を行う。

【授業計画】

○メディア授業

- ・Web会議システム「Zoom」を使用した同時双方(リアルタイム)型のメディア授業。
- ・授業の2日前までにwebキャンパスに登録しているメールアドレスにミーティングURLを送付する。
- ・開講予定については「面接授業 [スクーリング] 日程表 メディア授業 [リアルタイム] 日程表」を参照すること。
- ・3日間全ての出席が必要。

(メディア授業の構成)

第1日目 情報化社会の現状と情報倫理/情報セキュリティと人間行動

第2日目 著作権・知的財産権と創作/情報の受容と発信について

第3日目 個人情報の保護とプライバシー

【成績評価の方法】

授業内で提出した課題による評価。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

インターネット接続環境があり、本学Webキャンパスに接続できること。

○備 考

- ・履修年次は問わない。
- ・授業内ではコンピュータの基本操作（テキスト入力やマウス操作など）の説明は行わない。文書の保存、ファイル操作、ブラウザやメールソフトなどの基本ソフトが扱えること。
- ・操作に不安のある学生は事前に練習を行い、授業に参加することが望まれる。テキスト入力やマウス操作の他には、最低限、Webブラウザを使用したWebの閲覧及び検索エンジンの使用が可能であれば、実習はスムーズに行えるはずである。
- ・カメラとマイクを備えたパソコンやタブレットPCが適している。内蔵されていない場合は、外部マイクやカメラが必要である。
- ・ZoomはWebブラウザで利用できるオンラインツールである。サインアップ（アカウント取得）は不要。専用ソフト（ミーティング用Zoomクライアント）を使用しても良い。その場合は、最新バージョンを使用すること。

【教材等】

なし

【その他】

参考文献：授業内で知らせる。

科目名	情報職業論						
授業コード	0480	授業科目名	情報職業論			担当者	坂口和敏講師
開講期間	通年	単位数	1単位(M1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	メディア授業 [リアルタイム]						

【授業の概要と目標】

インターネット、スマートフォン、SNSに代表される情報通信技術の進化により、私たちの生活は大きく変化してきた。情報社会（Society4.0）は従来の対面型コミュニケーションから時間や場所に依存せずに個と個がつながる新しい体験を可能にした。

我が国が目指すべき未来社会の姿として、内閣府はSociety5.0を掲げている。具体的にはサイバー空間とフィジカル（現実）空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会の実現を目指している。

本講義では人間中心設計やサービスデザインの手法を学び、Society5.0が求められる社会背景を考察した上で人を中心とした社会の新たな価値を描くことを目的とする。具体的なテーマに沿って各自PCでオンラインツールを使って調査、分析、提案を行うアクティブラーニング形式で行う。

【課題の概要】

○メディア授業課題

以下のテーマから各自1つを選択する。テーマに対する課題発見を行った上で課題解決の提案を作成する。

- 1.医療・介護
- 2.ものづくり
- 3.農業
- 4.食品
- 5.防災
- 6.エネルギー

※ 一部、状況に応じて変更する場合がある。

【授業計画】

○メディア授業

- ・Web会議システム「Zoom」を使用した同時双方(リアルタイム)型のメディア授業。
- ・授業の2日前までにwebキャンパスに登録しているメールアドレスにミーティングURLを送付する。
- ・開講予定については「面接授業 [スクーリング] 日程表 メディア授業 [リアルタイム] 日程表」を参照すること。
- ・3日間全ての出席が必要。

(メディア授業の構成)

第1日 (問いのデザイン)

- ・オリエンテーション
- ・デザイン手法について
- ・デザインワーク

第2日 (解決策のデザイン)

- ・オリエンテーション
- ・人間中心設計について
- ・サービスデザインについて
- ・デザイン手法について
- ・デザインワーク

第3日

- ・オリエンテーション
- ・デザインワーク (プレゼンテーション準備)
- ・相互評価
- ・上位者によるプレゼンテーション

※ 一部、状況に応じて変更する場合がある。

【成績評価の方法】

授業内で提出した課題による評価。

時間内に課題が提出できない場合は欠格とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

インターネット接続環境があり、本学Webキャンパスに接続できること。

○備 考

- ・履修年次は問わない。
- ・授業内ではコンピュータの基本操作（テキスト入力やマウス操作など）の説明は行わない。文書の保存、ファイル操作、ブラウザやメールソフトなどの基本ソフトが扱えること。
- ・操作に不安のある学生は事前に練習を行い、授業に参加することが望まれる。テキスト入力やマウス操作の他には、最低限、Webブラウザを使用したWebの閲覧及び検索エンジンの使用が可能であれば、実習はスムーズに行えるはずである。
- ・カメラとマイクを備えたパソコンやタブレットPCが適している。内蔵されていない場合は、外部マイクやカメラが必要である。
- ・ZoomはWebブラウザで利用できるオンラインツールである。サインアップ（アカウント取得）は不要。専用ソフト（ミーティング用Zoomクライアント）を使用しても良い。その場合は、最新バージョンを使用すること。
- ・演習では以下のオンラインツールを使用する。
- ・Webブラウザ
- ・slack（チャットツール）
- ・Miro（オンラインホワイトボード）
- ・Googleスライド（プレゼンテーション）

授業では上記ツールの簡単な使い方の説明は行うが、PCの基本操作（テキスト入力、マウス操作、ファイル移動など）の説明は行わない。Miroはアプリケーションを事前にインストールすること。

・各オンラインツールへは授業の1週間前までに大学より招待メールを送付する予定である。必ず事前にWebキャンパスにアドレスを登録すること。また、Googleスライド（プレゼンテーション）を使用するためにGoogleアカウントが必要となるので、WebキャンパスにはGmailを登録すること。

【教材等】

事前課題として以下参考資料を読んだ上で参加すること。

- ・サービスデザイン実践ガイドブック（内閣官房IT総合戦略室）
https://cio.go.jp/sites/default/files/uploads/documents/guidebook_servicedesign.pdf

- ・Society5.0資料（内閣府）
https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/society5_0.pdf

【その他】

本講義で学ぶ「情報職業」は情報技術の活用による企業活動を想定している。実在の社会における事業／ビジネスをテーマとして取り上げ、情報技術のデザインスキル定着が目的である。

そのため講義スタイルではなく、アクティブラーニング形式のデザインワークで行う。デザインワークを通して潜在ニーズを理解し、どのような価値提案を行っていくかを評価のポイントとする。

科目名	演劇空間論						
授業コード	0490	授業科目名	演劇空間論			担当者	荻原剛教授、 吉村朋果講師
開講期間	通年	単位数	4単位 (T4)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可 科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

古代ギリシャを源流とする演劇の流れと、それを上演・観賞する劇場空間の関係を、美術的視点から比較検討して、演劇及び演出された空間の特質を考察する。それによって、非日常的な祝祭空間への理解と認識を深めることになり、空間における演出の役割、造形的演出の具体的な手法、舞台美術や舞台照明・映像等の概要も把握してもらう。

【課題の概要】

○通信授業課題 1「生活の中の祝祭性について考察する」

日常生活の中でメモリアルな行事や慣習を通して祝祭の役割を考える。レポート 1200 字以上、1500字程度。

○通信授業課題 2「劇場一演ずるための場について考察する」

身近にある劇場・ホールが日常の生活とどのように結びついているか考える。

あるいは実演や祭事の実例を挙げて生活の中での役割について考察する。レポート 1200 字以上、1500字程度。

○通信授業課題 3「舞台や都市空間における光の演出効果を考察する」

自然光や人工照明は、その使い方によって日常的な風景や事物に新たなイメージを表出する。その具体的事例と効果について説明する。レポート 1200 字以上、1500 字程度及びスケッチ又は写真を添付する。

○通信授業課題 4「実際に観た舞台や芸能、映画・TV、動画の作品の空間と演出について考察する」

単なる作品批評ではなく、その成立背景やテーマを浮き彫りにする演出手法などを説明する。レポート1200 字以上、1500 字程度。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

* なお、レポート作成にあたっては、自己体験から生まれる考えや思いを起点に分析的な考察を行い、論の展開を図ってほしい。

【授業計画】

○通信授業

教科書の目次より。

第 1 章と第 2 章「演劇空間の理念と移り変り」

第 3 章と第 4 章と第 5 章「舞台美術と演劇空間と劇場の構造」

第 6 章「舞台照明」

第 7 章「舞台衣装」

第 8 章「舞台化粧」

第 9 章「設計」

第 10 章「音響」

第 11 章「映像空間」

第 12 章「演劇の境界領域」

実際の作品を観賞する。

【成績評価の方法】

◎科目試験

教科書の内容を中心に出題。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

履修年次は問わない。

スペースデザインコース進学希望者は、1～2年次に履修することが望ましい。

【教材等】

○教科書

小石新八『演劇空間論』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

教科書の他に、演劇、劇場等に関する参考書、雑誌は多数あるので、適宜に選択してほしい。TVや舞台公演も教材である。日常生活の中で、様々な演劇的状况（祭事・イベントも含む）を注目し、様々な演出された空間を発見してほしい。

科目名	工業技術概論						
授業コード	0500	授業科目名	工業技術概論			担当者	荻原剛教授、 近藤嘉男講師
開講期間	通年	単位数	4単位(T4)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可）						

【授業の概要と目標】

私たちの生活は、住宅や衣類、用具、情報機器、交通機関などさまざまな人工物を基盤として成り立っている。これらの人工物は、人類が道具を利用することを覚えて以来様々な工夫があり、発展を遂げてきた、いわば人類の英知の結晶である。特に産業革命以降の近代工業技術による工業製品は人間の生活を快適で豊かにするために必要なものを設計・製作し、あるマス（量）を前提にして生産されている。

一方、工業製品の氾濫で地球規模でのエネルギー問題や環境問題もクローズアップされている。これらの問題を解決する方法もまた、科学技術の発展をベースにした工業技術といえる。

いろいろな工業製品を作るバックボーンになる工業技術の概要を理解し、生産技術とは何か、“もの”のあり方とは何かを考察し、生活者として正しい視点を持ち、デザインを正しく理解し、評価できる基礎的な知識と考え方を学ぶことを目標とする。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

日常的に使用している身近な品々から量産されている20種類を取り上げ、その材料、加工方法、表面処理を推測して報告する。

○通信授業課題 2

自動車のプラモデルのキットを購入し、そのパッケージに入っているパーツをよく観察してプラスチックの生産技術を分析、その結果を考察しレポートを作成する。

○通信授業課題 3

自動車は多くの部品から構成された工業技術の粋ともいえる製品の代表である。プラモデルも樹脂射出成型技術の粋ともいえる。この二つを比較して技術とは何かということについて考える。

課題 2 で選んだプラモデルを組立て、実際に存在する自動車と比較して、プラモデルとの比較を行いその違いを考察しレポートを作成する。

○通信授業課題 4

いくつかの部品で構成された生活用品を取り上げ、その素材と加工技術を特定し、機能と造形にどのように関連しているか、それぞれの素材と加工技術を論じる。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

- 身の回りの品々を観察し、デザインの基本になる技術、技術と造形の関連性を認識する。
- 多くの製品に利用されるプラスチック技術の概要を、プラモデルの部品を例に考察する。
- 材料と加工技術、造形の関連を認識しその概要を理解する。
- 製品の部品構成を観察することにより、素材の加工技術と造形の関連を学ぶ。
- 各課題を行うことにより、素材と加工技術、造形との関連性やもの造りのコンセプト、デザインの視点を理解し、クリエイターとしての造形における視点や生活者として消費における問題意識の視点を身に付ける。

【成績評価の方法】

提出課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備 考

履修年次は問わないが、図面を描く基礎的な知識を持つことを前提とするため、「図法製図 I」の単位を修得しているか、同時に履修することが望ましい。

【教材等】

○教科書

クリス・レフテリ著、水原文訳『「もの」はどのようにつくられているのか?』（オライリー・ジャパン 2014年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

なし

科目名	絵画空間論						
授業コード	2200	授業科目名	絵画空間論			担当者	関口雅文教授、室井佳世教授、小森琢己講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可 科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

絵画として、表現される画面には、さまざまな表情がある。その表情のひとつとして「絵画空間」は存在する。そのことを知るために、作品の鑑賞を通し、画面分析と自己の考えをまとめることを目的にする。導入としては、西洋と東洋の絵画空間の変遷を通し、画面にはどのような空間が存在し、その空間がどのような役割や効果を生んでいるのか考察しながら追求していく。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

作品に於ける画面の成り立ちを分析する。

ラスコーの壁画が描かれた時代から 20 世紀初頭までの絵画と言われる作品を選択し、その作品の画面がどのような空間の処理がされているかを考察する課題。

○通信授業課題 2

自己の絵画空間論について述べる。

平面絵画に現れる絵画空間について、自己の考え方や自己が理想とする空間をレポートにまとめる課題。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

教科書を通読した上で、通信授業課題 1、2 に取り組むこと。

【成績評価の方法】

◎ 科目試験

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書

堀内貞明、永井研治、重政啓治『絵画空間を考える』（武蔵野美術大学出版局 2010 年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024 年）

【その他】

なし

科目名	美術解剖学						
授業コード	0520	授業科目名	美術解剖学			担当者	伊藤恵夫講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業(郵送提出のみ 科目試験あり)						

【授業の概要と目標】

美術解剖学では、ヒトや他の動物の体の中にある骨格や筋肉について学ぶ。体の内部構造に関する知識は、体表に現れるレリーフを意味のある「かたち」として認識するための助けとなる。ただアウトラインを追うだけの観察ではなく、立体としての形態やバランスを把握する力を養成する。また、実際に造形作品を作成する際に、何を表現し何を省くかを、自分で選択できる目を養うことを目標とする。

【課題の概要】

○通信授業課題1「四肢の骨格を意識して動物の全身を描く」

動物園などに行き、四肢（まえあし、うしろあし）の骨格を意識して、動物の全身像をスケッチする。

哺乳類を2種以上（ただし、霊長類“サルの仲間”を除く）、鳥類を1種以上。それぞれの動物の肩、肘、手くび、膝、かかとの位置を示すこと。提出はB4サイズ、3～6枚。動物の名前も明記すること。課題解説をよく読むこと。

○通信授業課題2「人物画または人物彫刻のポーズで骨格図・筋肉図を描く」

造形作品（絵画または彫刻：全身像とする）を1点選び、トレースした図2枚に骨格および筋肉を描き込む。課題解説をよく読んで作品を選ぶこと。使用した図版（コピー）1枚、骨格図1枚、筋肉図1枚。B4サイズに統一して提出する。

*課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

- ・美術解剖学を学ぶにあたって
- ・骨格について
- ・筋肉について
- ・プロポーション

【成績評価の方法】

◎科目試験

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書

ルイズ・ゴードン『人体解剖と描画法』上昭二訳（ダヴィッド社 1982年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

○参考文献

桜木晃彦『自分の骨のこと知ってますか』（講談社 2001年）

アーネスト・T・シートン『美術のためのシートン動物解剖図』（マール社 1997年）

Fritz Schider “An Atlas of Anatomy for Artists” (Dover, 1957)

Paul Richer, Rovert B. Hale(ed.) “Artistic Anatomy” (Watson-Guption, 1971)

科目名	日本画材料学						
授業コード	2210	授業科目名	日本画材料学			担当者	室井佳世教授、中野めぐみ講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（Web提出可 科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

日本画と言われる領域において、なじみのない言葉は多くある。また特異な言葉もさまざま存在する。それらに関する用語の内容とそのものの深さを知ることが文化の重みや特色も感じることが出来る。

この科目は、制作を通してではなく、古来使われ続けている群青、白緑などから現在多様な色が存在する日本画の絵具を取り上げ、それらの体系的な解説をもとに知識を深める。また、日本画の制作時に用いられる用具用材として、絵具の接着剤、支持体、筆、制作の補助用具など、さまざまな描画材に関わる種類の体系を学ぶ。さらに、日本画の制作時に出てくる独特と言える用語についても、知識を深めることを目的とする。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

日本画絵具分類表を、指定された形式で作成をする。

生活する身のまわりにある物で日本画絵具の素材になるものを探し、指定された形式に従い分類表の作成をする課題。

○通信授業課題 2

日本画の用具用材について、生活利用調査をする。

日本の地域の中で育った現在日本画と呼ばれている素材が、身近にどのように活用されているかの実態調査と可能性についてレポートにまとめる課題。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

教科書を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組む。

【成績評価の方法】

◎ 科目試験

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書

重政啓治監修『日本画の用具用材』（武蔵野美術大学出版局 2010年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

なし

科目名	ワークショップ研究 I						
授業コード	0540	授業科目名	ワークショップ研究 I			担当者	杉山貴洋講師、川本雅子講師、田中千賀子講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	1～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（課題A：郵送提出のみ、課題B：郵送またはWeb提出） 面接授業						

【授業の概要と目標】

ワークショップ研究は、学校や教室のみならず、ひろく社会の場において、造形活動に関わり、つくる、みる、伝えるなどの実践を研究するものである。グループで活動するときに使われる「ワークショップ」という手法を通じて、様々な視点から、コミュニケーションの方法、グループワークの広がり、造形活動の可能性などの在り方を考察する。

【課題の概要】

○面接授業課題

夏のスクーリングに参加してワークショップを体験する。またワークショップを体験し、議論をおこない、その展開を試みる。グループワークや体や言葉を使ったコミュニケーション活動などを含む。

○通信授業課題

A「私の参加したワークショップ」（各自の地域や社会教育施設等で開催されているワークショップに参加して、プロセスをイラスト、漫画、絵日記などで簡潔にまとめ、記録とレポートを作成する）、またはB「ワークショップの経験と考察」（スクーリングで体験したワークショップと教科書のワークショップ事例を比較考察してレポートを作成する）の、いずれかを選ぶこと。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

面接授業 → 通信授業

教科書『造形ワークショップ入門』の目次より。

- 第1章 ワorkshopの手法
- 第2章 ワorkshopをつくる
- 第3章 ワorkshopをまなぶ

○面接授業

- 第1日 実際にワークショップを体験し、その手法と特長を理解する。
- 第2日 ワorkshopの手法をもとに、テーマを設定し、制作や演技・計画などを組み立てる。
- 第3日 2日目に計画されたワークショップを発表し、レポートに簡潔にまとめる。

○通信授業

教科書、学習指導書を理解して、通信授業課題AまたはBを提出する。

【成績評価の方法】

面接授業と通信授業の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

なし

○備考

履修年次は問わない。

【教材等】

○教科書

高橋陽一監修『造形ワークショップ入門』（武蔵野美術大学出版局 2015年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2024年）

【その他】

なし

科目名	ワークショップ研究 II						
授業コード	0550	授業科目名	ワークショップ研究 II			担当者	杉山貴洋講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	2～4	指定	
科目区分	造形文化科目/文化総合科目						
授業形態	通信授業（郵送提出のみ） 面接授業						

【授業の概要と目標】

「ワークショップ研究 I」を単位修得した者を対象に、さらにワークショップの実践を発展させ、研究するための科目である。とくに、記録と検証を重視する。ワークショップの企画に携わり、実践を試みる。その上で、ワークショップをグループ活動に使う可能性を検証する。また、そのプロセスを記録し、活動に還元し、グループワークの広がり进行を考察する。

【課題の概要】

○面接授業課題

「ワークショップ研究 I」を履修し、どのような活動に参加し、どのような考察をしたのか、ワークショップ研究 I を振り返り議論を行う。グループで行うワークショップを計画し実践をする。また、その展開の方法を検証する。グループワークや体や言葉を使ったコミュニケーション活動などを含む。

○通信授業課題

各自の家庭や職場、地域や社会施設でワークショップの企画に携わる。または、美術館や社会教育施設で募集されているワークショップのボランティアに参加する。具体的な方法はスクリーングで紹介されるものを参考にする。また、その記録とレポートを合わせて提出する。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

面接授業 → 通信授業

○面接授業

第 1 日 ワorkshop研究 I のレポートを発表し、クラスメイトで議論を行う。
 第 2 日 1 日目の議論をもとに、クラスメイトを巻き込んだワークショップを企画する。
 第 3 日 2 日目に企画したワークショップを成立させ、その案内役を務める。その後、クラスメイト全員で検証する。

○通信授業

実践例やマナーなどについて再考すること。その上で、各自の家庭や職場、地域や社会教育施設等でワークショップの企画を立てる。または、美術館や社会教育施設等で募集されているワークショップのボランティアに参加する。ワークショップ研究 II では、企画する側からスタートして、グループワークを展開する。そして、そのプロセスをイラスト、漫画、絵日記などで簡潔にまとめる。また、参加者への招待状や、お礼の手紙を活動の一環として、記録とレポートと合わせて提出する。具体的な方法はスクリーングで紹介されるものを参考にする。

【成績評価の方法】

面接授業と通信授業の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

「ワークショップ研究 I」の単位を修得していること。

○備 考

なし

【教材等】

○教科書

高橋陽一監修『造形ワークショップ入門』（武蔵野美術大学出版局 2015 年）

○学習指導書

【その他】

なし